

旧第11 通学区高等学校教育懇話会 意見聴取の結果について

(量的調査)

アンケート分析結果（中学生）	1 ページ
アンケート分析結果（高校生）	2 1 ページ
P T A 役員（公立小中高） 及び同窓会役員（公立高校）	3 4 ページ

(質的調査)

高校生による「高校のあり方フォーラム」報告	4 4 ページ
中学生への対面ヒアリング	
松本市立中学校	4 7 ページ
塩尻市立塩尻中学校	4 9 ページ
安曇野市立中学校（延期）	

旧第 11 通学区高等学校教育懇話会 アンケート分析結果（中学生）

要約.....	1
単純集計.....	2
学年別集計.....	6
性別集計.....	11
地域別集計.....	16

要約

- 進学を希望する高校について、以下の傾向が認められた。
 - 家から通学できる範囲にあると回答した割合が 89%と多かった。
 - 県立（公立）を回答した割合が 55%と最も多かった（「わからない」22%）。
 - 旧第 11 通学区内と回答した割合が 86%と最も多かった。
 - 全日制と回答した割合が 51%と最も多かった（「わからない」36%）。
 - 普通科系と回答した割合が 45%と最も多かった（「わからない」32%）。
 - 進学を希望する理由として、「その高校に進学することが、卒業後の進路選択に役立つため」と回答した割合が 30%と最も多かった。

高校を選択する時に大切にしたいキーワードとして、「高校卒業後の進路」、「部活動」、「学校の校風・雰囲気」、「友人関係」、「授業の内容（カリキュラム）」は 30%以上の生徒が選択していた。一方、「少人数教育」、「寮や下宿」、「地域等との連携」を選択した生徒は相対的に少なかった。

- 本調査の学年差として、以下の傾向が認められた。
 - 2 年生の方が、進学を希望する学校が家から通学できる範囲にないとの回答が多かった。
 - 3 年生の方が、進学を希望する高校について、「県立（公立）」、「全日制」、「普通科」との回答が多く、「わからない」との回答が少なかった。
 - 高校を選択する時に大切にしたいキーワードとして、3 年生の方が「学校の校風・雰囲気」との回答が多かった。
- 本調査の性差として、以下の傾向が認められた。
 - 希望する高校について、女性では「普通科系」の回答が多く、「専門学科」の回答が少ない。
 - 高校を選択する時に大切にしたいキーワードとして、女性は「学校の校風・雰囲気」、男性は「友人」を重視し、「制服」を軽視することが認められた。
- 本調査の地域差として、以下の傾向が認められた。
 - 麻績村では「旧第 11 通学区内（松本市、塩尻市、安曇野市、東筑摩郡）」の回答が少ない。
 - 安曇野市と生板村、麻績村では「専門学科系」の回答多く、塩尻市と朝日村では「総合学科」の回答が多い。
- ただし、統計学の観点では顕著な学年差、性差、地域差は認められなかった。

単純集計

学年

学年	人数	割合
2年	2529	47%
3年	2862	53%

2年生と3年生の比率はほぼ1:1であった。

性別

性別	人数	割合
女性	2538	47%
男性	2712	50%
その他、答えたくない	141	3%

女性と男性の比率はほぼ1:1であった。

現在、あなたが進学したいと思う高校は、家から通学できる範囲にありますか。

回答	人数	割合
ある	4796	89%
ない	595	11%

9割弱の生徒が、進学したいと思う高校が家から通学できる範囲にあると回答した。

その高校は県立（公立）ですか、私立ですか？

回答	人数	割合
県立（公立）	2993	56%
私立	628	12%
わからない	1175	22%
無回答	595	11%

6割弱の生徒が県立（公立）高校と回答した。わからないと回答した生徒は全体の2割であった。

その高校の場所は、どこにありますか？

回答	人数	割合
旧第11通学区内（松本市、塩尻市、安曇野市、東筑摩郡）	4620	86%
旧第11通学区外の県内および県外	176	3%
無回答	595	11%

9割弱の生徒が旧第11通学区内（松本市、塩尻市、安曇野市、東筑摩郡）と回答した。

その高校の課程は、わかりますか？

回答	人数	割合
全日制	2770	51%
定時制	52	1%
通信制	43	1%
わからない	1931	36%
無回答	595	11%

5割の生徒が全日制と回答した。わからないと回答した生徒は4割弱であった。

その高校の学科は、わかりますか？

回答	人数	割合
普通科系（普通科、自然・国際探究科、学究科、国際観光科、理数科など）	2430	45%
専門学科系（農業科、工業科、商業科、家庭科、音楽科など）	451	8%
総合学科	206	4%
わからない	1709	32%
無回答	595	11%

5割弱の生徒が普通科系（普通科、自然・国際探究科、学究科、国際観光科、理数科など）と回答した。わからないと回答した生徒は3割であった。

以上から、調査時期の段階において、生徒は進学を希望する高校の場所までは把握しているが、その高校の教育課程や学科など、学校の詳細については把握していないと考えられる。

その高校に進学したい理由は何ですか？もっとも該当するものを1つチェックしてください。

回答	人数	割合
その高校に進学することが、卒業後の進路選択に役立つため	1598	30%
希望する部活動があるため	692	13%
その高校の校風が気に入っているため	600	11%
その高校には、学びたい学科があるため	562	10%
その高校が、最も家から通学しやすいため	494	9%
その他	850	16%
無回答	595	11%

3割の生徒が「その高校に進学することが、卒業後の進路選択に役立つため」と回答した。

3で「ない」と回答した理由として当てはまるものを、次の中から1つだけ選んでください。

回答	人数	割合
学びたい学科（こと）がある高校が、家から通える範囲にないため	89	2%
希望する部活を行っている高校が、家から通学できる範囲にないため	57	1%
気に入っている校風の学校が、家から通える範囲にないため	40	1%
高校卒業後の進路選択に役立つ高校が、家から通学できる範囲にないため	49	1%
その他（上のどれにも当てはまらない）	360	7%
無回答	4796	89%

進学を希望する学校がないと回答した生徒について、「学びたい学科（こと）がある高校が、家から通える範囲にないため」の回答が最も多かった。

高校を選択するとき、あなたが大切にしたいと思うキーワードを、3つ以内で選んでください。「その他」を選択したときは、その内容を記入してください。

回答	人数	割合
課程の種類（全日・定時・通信）	855	16%
授業の内容（カリキュラム）	1680	31%
高校卒業後の進路	2260	42%
学校の校風・雰囲気	1791	33%
自治・生徒会活動	119	2%
校則	772	14%
制服	371	7%
部活動	1919	36%
通学時間・距離	1059	20%
友人関係	1757	33%
先生	340	6%
I C T環境	86	2%
少人数教育	39	1%
探究的な学び	209	4%
寮や下宿	70	1%
地域等との連携	23	0%
SDGsなどの社会課題への取組	92	2%
施設・設備	362	7%
立地や環境	173	3%
家族の考えや協力	574	11%
メンタルサポート	108	2%
学費等の経済的負担	399	7%

30%以上の生徒が選択した項目は、多いものから順に「高校卒業後の進路」(42%)、「部活動」(36%)、「学校の校風・雰囲気」(33%)、「友人関係」(33%)、「授業の内容（カリキュラム）」(31%)で

あった。一方、「少人数教育」(1%)、「寮や下宿」(1%)、「地域等との連携」(0%)を選択した生徒は相対的に少なかった。

地域や地元の高校に望むこと、期待することがあれば、記入してください。(30字以内)

部活動や制服、生活、校則に関して、具体的な記述が散見された。記述例は次の通り。

- 公立高校にも制服を作ってほしい。
- 校則を全体的に緩くしてほしい
- 風紀の良い、学習や部活動を楽しめるような学校
- 学校施設を綺麗にしてほしいです！

その他、高校教育全般に対して思うこと、感じていることがあれば、自由に記入してください。(30字以内)

校則や制服、授業に関して、具体的な記述が散見された。具体的な記述は次の通り。

- 校則が厳しすぎる
- 制服がいいです
- 頭の良い学校は授業が難しそう
- 授業内容が少し難しいと思います

学年別集計

現在、あなたが進学したいと思う高校は、家から通学できる範囲にありますか。

回答		2年	3年
ある	人数	2145	2651
	割合	85%	93%
ない	人数	384	211
	割合	15%	7%

クラメルの連関係数を求めたところ $V = 0.12$ であり、小さい値であったⁱⁱⁱ。そのため、通学できる範囲に進学を希望する高校があるかについて、小さい学年差が示唆される。上記のクロス集計表を踏まえると、2年生の方が「ない」と回答する生徒が多い傾向にあることがわかる。

その高校は県立（公立）ですか、私立ですか？

回答		2年	3年
県立（公立）	人数	1157	1836
	割合	46%	64%
私立	人数	254	374
	割合	10%	13%
わからない	人数	734	441
	割合	29%	15%
無回答	人数	384	211
	割合	15%	7%

クラメルの連関係数を求めたところ $V = 0.20$ であり、小さい値であった。そのため、進学を希望する高校の県立（公立）、私立という区分について、小さい学年差が示唆される。上記のクロス集計表を踏まえると、3年生の方が「県立（公立）」と回答する生徒が多く、「わからない」と回答する生徒が少ない傾向にあることがわかる。

その高校の場所は、どこにありますか？

回答		2年	3年
旧第11通学区内（松本市、塩尻市、安曇野市、東筑摩郡）	人数	2071	2549
	割合	82%	89%
旧第11通学区外の県内および県外	人数	74	102
	割合	3%	4%
無回答	人数	384	211
	割合	15%	7%

クラメルの連関係数は $V = 0.00$ であり、統計学の観点では学年差がほとんどないと判断される。

その高校の課程は、わかりますか？

回答		2年	3年
全日制	人数	811	1959
	割合	32%	68%
定時制	人数	21	31
	割合	1%	1%
通信制	人数	16	27
	割合	1%	1%
わからない	人数	1297	634
	割合	51%	22%
無回答	人数	384	211
	割合	15%	7%

クラメルの連関係数を求めたところ $V = 0.37$ であり、中程度の値であった。そのため、進学を希望する高校の県立（公立）、私立という区分の認知について、一定の学年差が示唆される。上記のクロス集計表を踏まえると、3年生の方が「全日制」と回答する生徒が多く、「わからない」と回答する生徒が少ない傾向にあることがわかる。

その高校の学科は、わかりますか？

回答		2年	3年
普通科系（普通科、自然・国際探究科、学究科、国際観光科、理数科など）	人数	759	1671
	割合	30%	58%
専門学科系（農業科、工業科、商業科、家庭科、音楽科など）	人数	164	287
	割合	6%	10%
総合学科	人数	83	123
	割合	3%	4%
わからない	人数	1139	570
	割合	45%	20%
無回答	人数	384	211
	割合	15%	7%

クラメルの連関係数を求めたところ $V = 0.33$ であり、中程度の値であった。そのため、進学を希望する高校の学科の認知について、一定の学年差が示唆される。上記のクロス集計表を踏まえると、3年生の方が「普通科系」と回答する生徒が多く、「わからない」と回答する生徒が少な傾向にあることがわかる。

その高校に進学したい理由は何ですか？もっとも該当するものを1つチェックしてください。

回答		2年	3年
その高校に進学することが、卒業後の進路選択に役立つため	人数	682	916
	割合	27%	32%
希望する部活動があるため	人数	315	377
	割合	12%	13%
その高校の校風が気に入っているため	人数	233	367
	割合	9%	13%
その高校には、学びたい学科があるため	人数	227	335
	割合	9%	12%
その高校が、最も家から通学しやすいため	人数	247	247
	割合	10%	9%
その他	人数	441	409
	割合	17%	14%
無回答	人数	384	211
	割合	15%	7%

クラメルの連関係数は $V=0.09$ であり、統計学の観点では学年差がほとんどないと判断される。

3で「ない」と回答した理由として当てはまるものを、次の中から1つだけ選んでください。

回答		2年	3年
学びたい学科（こと）がある高校が、家から通える範囲にないため	人数	49	40
	割合	2%	1%
希望する部活を行っている高校が、家から通学できる範囲にないため	人数	36	21
	割合	1%	1%
気に入っている校風の学校が、家から通える範囲にないため	人数	21	19
	割合	1%	1%
高校卒業後の進路選択に役立つ高校が、家から通学できる範囲にないため	人数	20	19
	割合	1%	1%
その他（上のどれにも当てはまらない）	人数	258	102
	割合	10%	4%
無回答	人数	2145	2651
	割合	85%	93%

クラメルの連関係数を求めたところ $V = 0.21$ であり、小さい値であった。そのため、進学を希望しない理由について、小さい学年差が示唆される。上記のクロス集計表を踏まえると、3年生では「その他」と回答する生徒が少ない傾向であることがわかる。

高校を選択するとき、あなたが大切にしたいと思うキーワードを、3つ以内で選んでください。「その他」を選択したときは、その内容を記入してください。

回答		2年	3年	V
課程の種類（全日・定時・通信）	人数	325	530	0.08
	割合	13%	19%	
授業の内容（カリキュラム）	人数	788	892	0.00
	割合	31%	31%	
高校卒業後の進路	人数	1016	1244	0.03
	割合	40%	43%	
学校の校風・雰囲気	人数	708	1083	0.10
	割合	28%	38%	
自治・生徒会活動	人数	51	68	0.01
	割合	2%	2%	
校則	人数	377	395	0.02
	割合	15%	14%	
制服	人数	214	157	0.06
	割合	8%	5%	
部活動	人数	948	971	0.04
	割合	37%	34%	
通学時間・距離	人数	495	564	0.00
	割合	20%	20%	
友人関係	人数	906	851	0.06
	割合	36%	30%	
先生	人数	181	159	0.03
	割合	7%	6%	
I C T環境	人数	51	35	0.03
	割合	2%	1%	
少人数教育	人数	23	16	0.02
	割合	1%	1%	
探究的な学び	人数	88	121	0.02
	割合	3%	4%	
寮や下宿	人数	35	35	0.01
	割合	1%	1%	
地域等との連携	人数	9	14	0.01
	割合	0%	0%	
SDGsなどの社会課題への取組	人数	42	50	0.00
	割合	2%	2%	
施設・設備	人数	148	214	0.03
	割合	6%	7%	
立地や環境	人数	78	95	0.00

	割合	3%	3%	
家族の考えや協力	人数	298	276	0.03
	割合	12%	10%	
メンタルサポート	人数	52	56	0.00
	割合	2%	2%	
学費等の経済的負担	人数	186	213	0.00
	割合	7%	7%	

「学校の校風・雰囲気」のクラメルの連関係数は $V=0.10$ と小さい値であったため、小さな学年差が示唆される。クロス集計表を踏まえると、3年生の方が「学校の校風・雰囲気」を高校選択のキーワードとして選ぶ傾向にあることがわかる。

他の項目は、クラメルの連関係数が 0.10 未満であるため、統計学の観点では学年差がほとんどないと判断できる。

性別集計

現在、あなたが進学したいと思う高校は、家から通学できる範囲にありますか。

回答		女性	男性	その他
ある	人数	2300	2378	118
	割合	91%	88%	84%
ない	人数	238	334	23
	割合	9%	12%	16%

クラメルの連関係数は $V=0.05$ であり、統計学の観点から性差はほとんどないと判断できる。

その高校は県立（公立）ですか、私立ですか？

回答		女性	男性	その他
県立（公立）	人数	1545	1387	61
	割合	61%	51%	43%
私立	人数	303	307	18
	割合	12%	11%	13%
わからない	人数	452	684	39
	割合	18%	25%	28%
無回答	人数	238	334	23
	割合	9%	12%	16%

クラメルの連関係数は $V=0.08$ であり、統計学の観点から性差はほとんどないと判断できる。

その高校の場所は、どこにありますか？

回答		女性	男性	その他
旧第 11 通学区内（松本市、塩尻市、安曇野市、東筑摩郡）	人数	2229	2281	110
	割合	88%	84%	78%
旧第 11 通学区外の県内および県外	人数	71	97	8
	割合	3%	4%	6%
無回答	人数	238	334	23
	割合	9%	12%	16%

クラメルの連関係数は $V=0.04$ であり、統計学の観点から性差はほとんどないと判断できる。

その高校の課程は、わかりますか？

回答		女性	男性	その他
全日制	人数	1436	1265	69
	割合	57%	47%	49%
定時制	人数	21	30	1
	割合	1%	1%	1%
通信制	人数	19	21	3
	割合	1%	1%	2%
わからない	人数	824	1062	45
	割合	32%	39%	32%
無回答	人数	238	334	23
	割合	9%	12%	16%

クラメルの連関係数は $V=0.07$ であり、統計学の観点から性差はほとんどないと判断できる。

その高校の学科は、わかりますか？

回答		女性	男性	その他
普通科系 (普通科、自然・国際探究科、学究科、国際観光科、理数科など)	人数	1266	1110	54
	割合	50%	41%	38%
専門学科系 (農業科、工業科、商業科、家庭科、音楽科など)	人数	137	303	11
	割合	5%	11%	8%
総合学科	人数	116	81	9
	割合	5%	3%	6%
わからない	人数	781	884	44
	割合	31%	33%	31%
無回答	人数	238	334	23
	割合	9%	12%	16%

クラメルの連関係数は $V=0.10$ であり、小さな性差が示唆される。クロス集計表を踏まえると、女性の方が「普通科系」の回答が多く、「専門学科」の回答が少ない傾向にあることがわかる。

その高校に進学したい理由は何ですか？もっとも該当するものを1つチェックしてください。

回答		女性	男性	その他
その高校に進学することが、卒業後の進路選択に役立つため	人数	730	840	28
	割合	29%	31%	20%
希望する部活動があるため	人数	284	397	11
	割合	11%	15%	8%
その高校の校風が気に入っているため	人数	370	217	13
	割合	15%	8%	9%
その高校には、学びたい学科があるため	人数	233	307	22
	割合	9%	11%	16%
その高校が、最も家から通学しやすいため	人数	222	257	15
	割合	9%	9%	11%
その他	人数	461	360	29
	割合	18%	13%	21%
無回答	人数	238	334	23
	割合	9%	12%	16%

クラメルの連関係数は $V=0.10$ であり、小さな性差が示唆される。クロス集計表を踏まえると、女性の方が「その高校の校風が気に入っているため」の回答が多い傾向にあることがわかる。

3で「ない」と回答した理由として当てはまるものを、次の中から1つだけ選んでください。

回答		女性	男性	その他
学びたい学科（こと）がある高校が、家から通える範囲にないため	人数	38	45	6
	割合	1%	2%	4%
希望する部活を行っている高校が、家から通学できる範囲にないため	人数	17	40	0
	割合	1%	1%	0%
気に入っている校風の学校が、家から通える範囲にないため	人数	22	17	1
	割合	1%	1%	1%
高校卒業後の進路選択に役立つ高校が、家から通学できる範囲にないため	人数	18	29	2
	割合	1%	1%	1%
その他（上のどれにも当てはまらない）	人数	143	203	14
	割合	6%	8%	10%
無回答	人数	2300	2378	118
	割合	91%	88%	84%

クラメルの連関係数は $V=0.10$ であり、小さな性差が示唆される。クロス集計表を踏まえると、性別でその他を選択した生徒は「学びたい学科（こと）がある高校が、家から通える範囲にないため」、「その他」の回答が多い傾向にあることがわかる。

高校を選択するとき、あなたが大切にしたいと思うキーワードを、3つ以内で選んでください。「その他」を選択したときは、その内容を記入してください。

回答		女性	男性	その他	V
課程の種類（全日・定時・通信）	人数	391	439	25	0.01
	割合	15 %	16 %	18 %	
授業の内容（カリキュラム）	人数	840	805	35	0.04
	割合	33 %	30 %	25 %	
高校卒業後の進路	人数	1057	1155	48	0.03
	割合	42 %	43 %	34 %	
学校の校風・雰囲気	人数	994	747	40	0.12
	割合	39 %	28 %	35 %	
自治・生徒会活動	人数	52	64	3	0.01
	割合	2 %	2 %	2 %	
校則	人数	388	360	24	0.03
	割合	15 %	13 %	17 %	
制服	人数	237	120	14	0.10
	割合	9 %	4 %	10 %	
部活動	人数	811	1068	40	0.08
	割合	32 %	39 %	29 %	
通学時間・距離	人数	551	483	25	0.05
	割合	22 %	18 %	18 %	
友人関係	人数	709	1011	37	0.10
	割合	28 %	37 %	26 %	
先生	人数	134	190	16	0.05
	割合	5 %	7 %	11 %	
I C T環境	人数	14	70	2	0.08
	割合	1 %	3 %	1 %	
少人数教育	人数	23	14	2	0.03
	割合	1 %	1 %	1 %	
探究的な学び	人数	80	121	8	0.04
	割合	3 %	4 %	6 %	
寮や下宿	人数	19	44	7	0.07
	割合	1 %	2 %	5 %	
地域等との連携	人数	7	14	2	0.03
	割合	0 %	1 %	1 %	
SDGs などの社会課題への取組	人数	41	50	1	0.02
	割合	2 %	2 %	1 %	
施設・設備	人数	152	204	6	0.03
	割合	6 %	8 %	4 %	
立地や環境	人数	64	99	10	0.05

	割合	3%	4%	7%	
家族の考えや協力	人数	311	246	15	0.05
	割合	12%	9%	11%	
メンタルサポート	人数	53	48	7	0.04
	割合	2%	2%	5%	
学費等の経済的負担	人数	231	154	14	0.07
	割合	9%	6%	910%	

「学校の校風・雰囲気」のクラメルの連関係数は $V=0.12$ であり、小さな性差が示唆される。クロス集計表を踏まえると、女性の方が「学校の校風・雰囲気」の回答が多い傾向にあることがわかる。

「制服」のクラメルの連関係数は $V=0.10$ であり、小さな性差が示唆される。クロス集計表を踏まえると、男性の方が「制服」の回答が少ない傾向にあることがわかる。

「友人関係」のクラメルの連関係数は $V=0.10$ であり、小さな性差が示唆される。クロス集計表を踏まえると、男性の方が「友人関係」の回答が多い傾向にあることがわかる。

他の項目は、クラメルの連関係数が 0.10 未満であるため、統計学の観点では性差がほとんどないと判断できる。

地域別集計

現在、あなたが進学したいと思う高校は、家から通学できる範囲にありますか。

回答		塩尻市	安曇野市	松本市	朝日村	生板村	筑北村	麻績村
ある	人数	710	887	2901	229	19	33	17
	割合	91%	91%	88%	85%	86%	87%	100%
ない	人数	73	90	380	42	3	7	0
	割合	9%	9%	12%	15%	14%	12%	0%

クラメルの連関係数は $V=0.05$ であり、統計学の観点から地域差はほとんどないと判断できる。

その高校は県立（公立）ですか、私立ですか？

回答		塩尻市	安曇野市	松本市	朝日村	生板村	筑北村	麻績村
県立（公立）	人数	439	590	1797	123	15	16	13
	割合	56%	60%	55%	45%	68%	68%	76%
私立	人数	94	77	417	34	2	3	1
	割合	12%	8%	13%	13%	9%	9%	6%
わからない	人数	177	220	687	72	2	14	3
	割合	23%	23%	21%	27%	9%	9%	18%
無回答	人数	73	90	380	42	3	7	0
	割合	9%	9%	12%	15%	14%	14%	0%

クラメルの連関係数は $V=0.06$ であり、統計学の観点から地域差はほとんどないと判断できる。

その高校の場所は、どこにありますか？

回答		塩尻市	安曇野市	松本市	朝日村	生板村	筑北村	麻績村
旧第 11 通学区内（松本市、塩尻市、安曇野市、東筑摩郡）	人数	658	866	2822	219	18	30	7
	割合	84%	89%	86%	81%	82%	75%	41%
旧第 11 通学区外の県内および県外	人数	52	21	79	10	1	3	10
	割合	7%	2%	2%	4%	5%	23%	59%
無回答	人数	73	90	380	42	3	7	0
	割合	9%	9%	12%	15%	14%	12%	0%

クラメルの連関係数は $V=0.20$ であり、小さな地域差が示唆される。クロス集計表を踏まえると、麻績村では「旧第 11 通学区内（松本市、塩尻市、安曇野市、東筑摩郡）」の回答が少ない傾向にあることがわかる。

その高校の課程は、わかりますか？

回答		塩尻市	安曇野市	松本市	朝日村	生板村	筑北村	麻績村
全日制	人数	430	531	1654	122	15	5	13
	割合	55%	54%	50%	45%	68%	13%	76%
定時制	人数	6	9	36	1	0	0	0
	割合	1%	1%	1%	0%	0%	0%	0%
通信制	人数	2	7	32	2	0	0	0
	割合	0%	1%	1%	1%	0%	0%	0%
わからない	人数	272	340	1179	104	4	28	4
	割合	35%	35%	36%	38%	18%	70%	24%
無回答	人数	73	90	380	42	3	7	0
	割合	9%	9%	12%	15%	14%	18%	0%

クラメルの連関係数は $V=0.06$ であり、統計学の観点から地域差はほとんどないと判断できる。

その高校の学科は、わかりますか？

回答		塩尻市	安曇野市	松本市	朝日村	生板村	筑北村	麻績村
普通科系（普通科、自然・国際探究科、学究科、国際観光科、理数科など）	人数	337	499	1475	87	12	14	6
	割合	43%	51%	45%	32%	55%	35%	35%
専門学科系（農業科、工業科、商業科、家庭科、音楽科など）	人数	47	137	231	19	5	3	9
	割合	6%	14%	7%	7%	23%	8%	53%
総合学科	人数	76	20	88	22	0	0	0
	割合	10%	2%	3%	8%	0%	0%	0%
わからない	人数	250	231	1107	101	2	16	2
	割合	32%	24%	34%	37%	9%	40%	12%
無回答	人数	73	90	380	42	3	7	0
	割合	9%	9%	12%	15%	14%	18%	0%

クラメルの連関係数は $V=0.13$ であり、小さな地域差が示唆される。クロス集計表を踏まえると、安曇野市と生板村、麻績村では「専門学科系」の回答多く、塩尻市と朝日村では「総合学科」の回答が多い傾向にあるとわかる。

その高校に進学したい理由は何ですか？もっとも該当するものを1つチェックしてください。

回答		塩尻市	安曇野市	松本市	朝日村	生板村	筑北村	麻績村
その高校に進学することが、卒業後の進路選択に役立つため	人数	245	323	943	62	5	10	10
	割合	31%	33%	29%	23%	23%	25%	59%
希望する部活動があるため	人数	94	107	459	25	1	3	3
	割合	12%	11%	14%	9%	5%	8%	18%
その高校の校風が気に入っているため	人数	85	125	344	41	2	3	0
	割合	11%	13%	10%	15%	9%	8%	0%
その高校には、学びたい学科があるため	人数	85	102	324	37	6	5	3
	割合	11%	10%	10%	14%	27%	13%	18%
その高校が、最も家から通学しやすいため	人数	83	85	305	19	0	2	0
	割合	11%	9%	9%	7%	0%	5%	0%
その他	人数	118	145	526	45	5	10	1
	割合	15%	15%	16%	17%	23%	25%	6%
無回答	人数	73	90	380	42	3	7	0
	割合	9%	9%	12%	15%	14%	18%	0%

クラメルの連関係数は $V=0.05$ であり、統計学の観点から地域差はほとんどないと判断できる。

3で「ない」と回答した理由として当てはまるものを、次の中から1つだけ選んでください。

回答		塩尻市	安曇野市	松本市	朝日村	生板村	筑北村	麻績村
学びたい学科（こと）がある高校が、家から通える範囲にないため	人数	13	13	51	11	1	0	0
	割合	2%	1%	2%	4%	5%	0%	0%
希望する部活を行っている高校が、家から通学できる範囲にないため	人数	10	8	34	4	0	1	0
	割合	1%	1%	1%	1%	0%	3%	0%
気に入っている校風の学校が、家から通える範囲にないため	人数	3	5	28	4	0	0	0
	割合	0%	1%	1%	1%	0%	0%	0%
高校卒業後の進路選択に役立つ高校が、家から通学できる範囲にないため	人数	2	9	33	5	0	0	0
	割合	0%	1%	1%	2%	0%	0%	0%
その他（上のどれにも当てはまらない）	人数	45	55	234	18	2	6	0
	割合	6%	6%	7%	7%	9%	15%	0%
無回答	人数	710	887	2901	229	19	33	17
	割合	91%	91%	88%	85%	86%	83%	100%

クラメルの連関係数は $V=0.00$ であり、統計学の観点から地域差はほとんどないと判断できる。

高校を選択するとき、あなたが大切にしたいと思うキーワードを、3つ以内で選んでください。「その他」を選択したときは、その内容を記入してください。

回答		塩尻市	安曇野市	松本市	朝日村	生板村	筑北村	麻績村	V
課程の種類（全日・定 時・通信）	人数	113	162	533	40	2	3	2	0.03
	割合	14 %	17 %	16 %	15 %	9 %	8%	12%	
授業の内容（カリキュ ラム）	人数	280	316	973	91	8	9	3	0.05
	割合	36 %	32 %	30 %	34 %	36 %	23%	18%	
高校卒業後の進路	人数	353	474	1279	118	9	16	11	0.08
	割合	45 %	49 %	39 %	44 %	41 %	40%	65%	
学校の校風・雰囲気	人数	251	327	1091	98	5	14	5	0.02
	割合	32 %	33 %	33 %	36 %	23 %	35%	29%	
自治・生徒会活動	人数	10	15	85	7	1	1	0	0.04
	割合	1 %	2 %	3 %	3 %	5 %	3%	0%	
校則	人数	110	125	479	45	3	6	4	0.03
	割合	14 %	13 %	15 %	17 %	14 %	15%	24%	
制服	人数	50	59	237	17	1	2	5	0.05
	割合	6 %	6 %	7 %	6 %	5 %	5%	29%	
部活動	人数	275	316	1221	82	6	16	3	0.05
	割合	35 %	32 %	37 %	30 %	27 %	40%	18%	
通学時間・距離	人数	139	207	643	58	2	7	3	0.03
	割合	18 %	21 %	20 %	21 %	9 %	18%	18%	
友人関係	人数	248	315	1099	71	8	14	2	0.04
	割合	32 %	32 %	33 %	26 %	36 %	35%	12%	
先生	人数	35	46	236	20	1	1	1	0.05
	割合	4 %	5 %	7 %	7 %	5 %	3%	6%	
I C T環境	人数	11	9	64	1	0	1	0	0.04
	割合	1 %	1 %	2 %	0 %	0 %	2%	0%	
少人数教育	人数	8	6	20	2	1	2	0	0.06
	割合	1 %	1 %	1 %	1 %	5 %	5%	0%	
探究的な学び	人数	24	45	123	11	3	2	1	0.04
	割合	3 %	5 %	4 %	4 %	14 %	5 %	6%	
寮や下宿	人数	17	9	36	6	1	1	0	0.04
	割合	2 %	1 %	1 %	2 %	5 %	3%	0%	
地域等との連携	人数	3	5	13	1	0	1	0	0.02
	割合	0 %	1 %	0 %	0 %	0 %	3%	0%	
SDGs などの社会課題 への取組	人数	15	17	53	5	1	1	0	0.02
	割合	2 %	2 %	2 %	2 %	5 %	2%	0%	
施設・設備	人数	69	69	204	15	0	5	0	0.05
	割合	9 %	7 %	6 %	6 %	0 %	13%	0%	
立地や環境	人数	27	32	102	9	1	2	0	0.02
	割合								

	割合	3%	3%	3%	3%	5%	5%	0%	
家族の考えや協力	人数	95	143	302	22	5	3	4	0.08
	割合	12%	15%	9%	8%	23%	8%	24%	
メンタルサポート	人数	11	13	77	5	1	1	0	0.03
	割合	1%	1%	2%	2%	5%	3%	0%	
学費等の経済的負担	人数	39	62	263	27	1	3	4	0.06
	割合	5%	6%	8%	10%	5%	8%	24%	

全ての項目について、クラメルの連関係数は0.10未満であり、統計学の観点では地域差はほとんどないと判断できる。

ⁱ その他について、「偏差値」や「恋愛」など77件の回答が得られたが、いずれも回答数が10を満たさなかったため割愛した。

ⁱⁱ クロス集計（表）において、行と列の連関の強さの指標である。統計学においては、「効果量(effect size)」の1つとして位置付けられており、近年その重要性が高まっている。

ⁱⁱⁱ 水本篤・竹内理（2008）研究論文における効果量の報告のために：基礎的概念と注意点. 英語教育研究, 31, 57-66.

旧第 11 通学区高等学校教育懇話会 アンケート分析結果（高校生）

要約.....	1
単純集計.....	2
学年別集計.....	5
性別集計.....	8
現在の学校生活の満足度に関する分析.....	11

要約

- A（とても満足）と B（満足）に回答した生徒が全体の 6 割弱を占めていた。A（とても満足）から C（普通）に回答した生徒は全体の 9 割強を占めており、本調査の対象者は現在の高校生活に満足している傾向にあることが示された。また、マルチレベル分析と決定木分析から、次のことが示された。
 - 学校満足度の学年差と性差は学校間でばらつきがあるが、全体的な傾向として認められる。
 - 1 年生の学校満足度は他学年よりも高い。
 - 学校満足度の性差はほとんどない。
 - 高校の選択理由が「学校の雰囲気がよかったから」である場合、現在の「学校の校風・風土」に満足していると学校満足度が高い。
 - 高校の選択理由が「学校の雰囲気がよかったから」でない場合には、現在の「部活動」に満足していると学校満足度が高い。
- 学校生活の満足度を左右している要因として、「友人関係」、「部活動」、「学校の校風・雰囲気」、「授業の内容（カリキュラム）」を選択した生徒が相対的に多かった。一方、「地域等との連携」と「SDGs などの社会課題への取組」、「少人数教育」を選択した生徒は相対的に少なかった。
- 現在の学校を選択した理由として、「学校の雰囲気がよかったから」、「合格できそうだったから」、「自宅から近いから、通いやすいから」を選択した生徒が相対的に多かった。一方、「塾、家庭教師の先生にすすめられたから」、「友人が選択していたから」、「中学校の先生にすすめられたから」を選択した生徒は相対的に少なかった。
- 学校生活の満足度を左右している要因について、以下の学年差が認められた。
 - 他の学年と比べて 4 年生では「少人数教育」を選択した生徒が多かった。
- 現在の学校を選択した理由について、以下の学年差が認められた。
 - 1 年生は「学校の雰囲気がよかったから」と「将来就きたい仕事と関連しているから」、「卒業後の大学等への進学に有利だから」を選択した生徒が多かった。また、「学校の雰囲気がよかったから」は 4 年生の選択も多かった。
- 学校生活の満足度を左右している要因について、以下の性差が認められた。
 - 男性では「部活動」を選択した生徒が相対的に多かった。
- 現在の学校を選択した理由について、以下の性差が認められた。
 - 女性では「学校の雰囲気がよかったから」を選択した生徒が相対的に多かった。

単純集計

学年

回答	人数	割合
1年	3356	39%
2年	2603	30%
3年	2624	30%
4年	61	1%
無回答	1	0%

1年生が全体の4割弱、2年生と3年生がそれぞれ全体の3割を占めた。なお、4年生は全体の1%であった。

性別

回答	人数	割合
女性	4175	48%
男性	4262	49%
その他、答えたくない (以下では、「その他」 と記す。)	207	2%
無回答	1	0%

女性と男性の比率はほぼ1:1であった。

現在の高校生活の満足度を次のAからEで教えてください。

回答	人数	割合
A (とても満足)	1754	20%
B (満足)	3216	37%
C (普通)	3127	36%
D (不満)	440	5%
E (とても不満)	108	1%

B(満足)と回答した生徒が最も多かった。A(とても満足)とB(満足)に回答した生徒が全体の6割弱を占めていた。A(とても満足)からC(普通)に回答した生徒は全体の9割強を占めており、本調査の対象者は現在の高校生活に満足している傾向にあることが示された。

あなたの満足度を左右している要因のうち、大きなものを3つ以内で選んでください。

回答	人数	割合
課程の種類（全日・定時・通信）	799	9%
授業の内容（カリキュラム）	2847	33%
高校卒業後の進路	1304	15%
学校の校風・雰囲気	2992	35%
自治・生徒会活動	362	4%
校則	1172	14%
制服	376	4%
部活動	3500	40%
通学時間・距離	1048	12%
友人関係	4319	50%
先生	1031	12%
I C T環境	128	1%
少人数教育	70	1%
探究的な学び	222	3%
寮や下宿	92	1%
地域等との連携	41	0%
SDGsなどの社会課題への取組	55	1%
施設・設備	673	8%
立地や環境	272	3%
家族の考えや協力	211	2%
メンタルサポート	160	2%
学費等の経済的負担	131	2%

「友人関係」(50%)、「部活動」(40%)、「学校の校風・雰囲気」(35%)、「授業の内容（カリキュラム）」(33%)を選択した生徒が相対的に多かった。一方、「地域等との連携」(0%)と「SDGsなどの社会課題への取組」(1%)、「少人数教育」(1%)を選択した生徒は100人未満であり、相対的に少なかった。

現在通っている高校を選択したのは、なぜですか。当てはまるものすべてをチェックしてください。

回答	人数	割合
自宅から近いから、通いやすいから	2476	29%
特色ある取組を行っているなど授業内容に興味があったから	2009	23%
他校よりも入学の難易度が高いから	854	10%
学校の雰囲気がよかったから	3244	38%
中学校の先生にすすめられたから	0	0%
塾、家庭教師の先生にすすめられたから	561	6%
親、親戚にすすめられたから	1429	17%
授業について行けそうだったから	1596	18%
将来就きたい仕事と関連しているから	1143	13%
卒業後の大学等への進学に有利だから	1467	17%
卒業後の就職に有利だから	753	9%
友人が選択していたから	454	5%
合格できそうだったから	2891	33%
入部したい部活動があったから	1781	21%
その他	647	7%

「学校の雰囲気がよかったから」(38%)、「合格できそうだったから」(33%)、「自宅から近いから、通いやすいから」(29%)を選択した生徒が相対的に多かった。一方、「塾、家庭教師の先生にすすめられたから」(6%)、「友人が選択していたから」(5%)、「中学校の先生にすすめられたから」(0%)を選択した生徒は相対的に少なかった。

地域や地元の高校に望むこと、期待することがあれば、記入してください。(30字以内)

学校の設備や周辺環境に関する記述が散見された。以下に具体例を記す。

- ・3階等、1階以外にも自販機を置いて欲しい
- ・冬のストーブが古いので新しいのに変えて欲しいです。
- ・トイレを綺麗にして欲しい
- ・校舎を綺麗にする
- ・WiFiが繋がるようにしてください。
- ・駅からの交通手段を整えてほしい。

その他、高校教育全般に対して思うこと、感じていることがあれば、自由に記入してください。(30字以内)

授業や校則、部活動に関する記述が散見された。以下に具体例を記す。

- ・授業内容の密度の差が大きい
- ・授業が雑な先生がいて、予備校の先生の方がわかりやすい
- ・授業がわかりづらい先生が多い
- ・髪染め、ピアスいいと思います
- ・部活が多く休む時間がなさすぎ

学年別集計

現在の高校生活の満足度を次のAからEで答えてください。

回答		1年	2年	3年	4年
A (とても満足)	人数	903	383	460	8
	割合	27%	15%	18%	13%
B (満足)	人数	1317	963	918	18
	割合	39%	37%	35%	30%
C (普通)	人数	996	1069	1037	25
	割合	30%	41%	40%	41%
D (不満)	人数	124	141	168	7
	割合	4%	5%	6%	11%
E (とても不満)	人数	16	47	41	3
	割合	0%	2%	2%	5%

クラメルの連関係数を求めたところ $V=0.10$ であり、小さい値であったⁱⁱ。そのため、現在の学校生活の満足度には、小さい学年差が示唆される。上記のクロス集計を踏まえると、1年生は他の学年と比べて、A(とても満足)が多く、C(普通)が少ない傾向にあることがわかる。

あなたの満足度を左右している要因のうち、大きなものを3つ以内で選んでください。

回答		1年	2年	3年	4年	V
課程の種類 (全日・定時・通信)	人数	298	250	234	17	0.06
	割合	9%	10%	9%	28%	
授業の内容 (カリキュラム)	人数	1097	886	840	24	0.02
	割合	33%	34%	32%	39%	
高校卒業後の進路	人数	378	441	473	12	0.09
	割合	11%	17%	18%	20%	
学校の校風・雰囲気	人数	1275	825	874	18	0.06
	割合	38%	32%	33%	30%	
自治・生徒会活動	人数	133	90	135	4	0.04
	割合	4%	3%	5%	7%	
校則	人数	424	401	338	8	0.04
	割合	13%	15%	13%	13%	
制服	人数	170	97	103	6	0.04
	割合	5%	4%	4%	10%	
部活動	人数	1372	1071	1045	12	0.04
	割合	41%	41%	40%	20%	
通学時間・距離	人数	453	310	278	6	0.04
	割合	14%	12%	11%	10%	

友人関係	人数	1834	1228	1231	26	0.08
	割合	55 %	47 %	47 %	43 %	
先生	人数	398	291	332	9	0.02
	割合	12 %	11 %	13 %	15 %	
I C T環境	人数	75	23	30	0	0.05
	割合	2%	1 %	1 %	0 %	
少人数教育	人数	25	17	21	7	0.10
	割合	1 %	1 %	1 %	11 %	
探究的な学び	人数	62	85	74	1	0.04
	割合	2 %	3 %	3 %	2 %	
寮や下宿	人数	37	33	22	0	0.02
	割合	1 %	1 %	1 %	0 %	
地域等との連携	人数	7	17	13	4	0.08
	割合	0 %	1 %	1 %	7 %	
SDGs などの社会課題への取組	人数	14	25	15	1	0.03
	割合	0 %	1 %	1 %	2 %	
施設・設備	人数	232	212	228	1	0.03
	割合	7 %	8 %	9%	2 %	
立地や環境	人数	93	89	87	3	0.02
	割合	3 %	3 %	3 %	5 %	
家族の考えや協力	人数	71	69	69	2	0.02
	割合	2 %	3 %	3 %	3 %	
メンタルサポート	人数	56	58	45	1	0.02
	割合	2 %	2 %	2 %	2 %	
学費等の経済的負担	人数	72	20	38	1	0.05
	割合	2 %	1 %	1%	2 %	

「少人数教育」のクラメルの連関係数は $V=0.10$ と小さい値であった。そのため、満足度を左右している要因として「少人数教育」を選択したことには、小さい学年差が示唆される。クロス集計を踏まえると、他の学年と比べて4年生では選択した生徒が多い傾向にあることがわかる。なお、他の項目については、クラメルの連関係数が0.10未満であり、統計学の観点では学年差がほとんどないと判断される。

現在通っている高校を選択したのは、なぜですか。当てはまるものすべてをチェックしてください。

回答		1年	2年	3年	4年	V
自宅から近いから、通いやすいから	人数	833	790	829	24	0.07
	割合	25 %	30 %	32 %	39 %	
特色ある取組を行っているなど授業内容に興味があったから	人数	911	574	512	11	0.08
	割合	27 %	22 %	20%	18 %	

他校よりも入学の難易度が高いから	人数	341	246	263	4	0.01
	割合	10 %	9%	10%	7 %	
学校の雰囲気がよかったから	人数	1579	884	753	27	0.16
	割合	47 %	34 %	29%	44 %	
中学校の先生にすすめられたから	人数	0	0	0	0	0.00
	割合	0%	0%	0%	0%	
塾、家庭教師の先生にすすめられたから	人数	257	185	115	4	0.06
	割合	8%	7 %	4 %	7 %	
親、親戚にすすめられたから	人数	619	443	361	6	0.06
	割合	18%	17 %	14 %	10 %	
授業について行けそうだったから	人数	590	515	470	21	0.04
	割合	18 %	20%	18%	34 %	
将来就きたい仕事と関連しているから	人数	579	328	233	3	0.10
	割合	17%	13 %	9 %	5 %	
卒業後の大学等への進学に有利だから	人数	713	398	354	2	0.10
	割合	21 %	15%	13 %	3 %	
卒業後の就職に有利だから	人数	353	244	153	3	0.07
	割合	11 %	9%	6 %	5 %	
友人が選択していたから	人数	188	126	138	2	0.02
	割合	6 %	5 %	5 %	3 %	
合格できそうだったから	人数	997	927	949	18	0.06
	割合	30 %	36 %	36%	30 %	
入部したい部活動があったから	人数	779	529	466	6	0.06
	割合	23 %	20 %	18 %	10 %	
その他	人数	251	197	187	12	0.04
	割合	7%	8 %	7 %	20 %	

「学校の雰囲気がよかったから」のクラメルの連関係数は $V=0.16$ と小さい値であるため、小さい学年差が示唆された。クロス集計表を踏まえると、1年生と4年生では回答が相対的に多く、2年生と3年生では回答が相対的に少ない傾向にあることがわかる。

「将来就きたい仕事と関連しているから」のクラメルの連関係数は $V=0.10$ と小さい値であるため、小さい学年差が示唆された。クロス集計表を踏まえると、1年生では回答が相対的に多い傾向にあることがわかる。

「卒業後の大学等への進学に有利だから」のクラメルの連関係数は $V=0.10$ と小さい値であるため、小さい学年差が示唆された。クロス集計表を踏まえると、1年生では回答が相対的に多い傾向にあることがわかる。

なお、他の項目については、クラメルの連関係数が 0.10 未満であり、統計学の観点では学年差がほとんどないと判断される。

性別集計

現在の高校生活の満足度を次のAからEで教えてください。

回答		女性	男性	その他
A (とても満足)	人数	772	956	26
	割合	18%	22%	13%
B (満足)	人数	1574	1583	59
	割合	38%	37%	29%
C (普通)	人数	1607	1445	75
	割合	38%	34%	36%
D (不満)	人数	189	215	36
	割合	5%	5%	17%
E (とても不満)	人数	33	63	11
	割合	1%	1%	5%

クラメルの連関係数は $V=0.08$ であり、0.10 未満であった。そのため、統計学の観点では現在の高校生活の満足度に性差はないと判断される。

あなたの満足度を左右している要因のうち、大きなものを3つ以内で選んでください。

回答		女性	男性	その他	V
課程の種類 (全日・定時・通信)	人数	295	471	33	0.08
	割合	7%	11%	16%	
授業の内容 (カリキュラム)	人数	1377	1393	77	0.01
	割合	33%	33%	37%	
高校卒業後の進路	人数	599	683	22	0.03
	割合	14%	16%	11%	
学校の校風・雰囲気	人数	1484	1451	57	0.03
	割合	36%	34%	28%	
自治・生徒会活動	人数	168	183	11	0.01
	割合	4%	4%	5%	
校則	人数	633	503	35	0.05
	割合	15%	12%	17%	
制服	人数	247	115	14	0.08
	割合	6%	3%	7%	
部活動	人数	1502	1940	58	0.10
	割合	36%	46%	28%	
通学時間・距離	人数	533	495	19	0.02
	割合	13%	12%	9%	
友人関係	人数	2191	2064	64	0.07

	割合	52 %	48 %	31 %	
先生	人数	510	477	43	0.05
	割合	12 %	11 %	21 %	
I C T環境	人数	50	73	5	0.02
	割合	1 %	2 %	2 %	
少人数教育	人数	36	34	0	0.01
	割合	1 %	1 %	0 %	
探究的な学び	人数	111	107	4	0.00
	割合	3 %	3 %	2 %	
寮や下宿	人数	20	68	4	0.06
	割合	0 %	2 %	2 %	
地域等との連携	人数	15	21	5	0.05
	割合	0 %	0 %	2 %	
SDGs などの社会課題への取組	人数	15	35	5	0.05
	割合	0 %	1 %	2 %	
施設・設備	人数	321	331	21	0.01
	割合	8 %	8 %	10 %	
立地や環境	人数	124	141	7	0.02
	割合	3 %	2 %	3 %	
家族の考えや協力	人数	111	93	7	0.02
	割合	3 %	2 %	3 %	
メンタルサポート	人数	84	61	15	0.07
	割合	2 %	1 %	7 %	
学費等の経済的負担	人数	71	50	10	0.05
	割合	2 %	1 %	5 %	

「部活動」のクラメルの連関係数は $V=0.10$ と小さい値であるため、小さい性差が示唆された。クロス集計表を踏まえると、男性の回答が相対的に多い傾向にあることがわかる。

なお、他の項目については、クラメルの連関係数が 0.10 未満であり、統計学の観点では性差がほとんどないと判断される。

現在通っている高校を選択したのは、なぜですか。当てはまるものすべてをチェックしてください。

回答		女性	男性	その他	V
自宅から近いから、通いやすいから	人数	1119	1289	68	0.04
	割合	27 %	30%	33%	
特色ある取組を行っているなど授業内容に興味があったから	人数	1036	916	56	0.04
	割合	25%	21 %	27 %	
他校よりも入学の難易度が高いから	人数	381	457	16	0.03
	割合	9%	11%	8 %	
学校の雰囲気がよかったから	人数	1830	1367	46	0.13
	割合	44%	32 %	22%	
中学校の先生にすすめられたから	人数	0	0	0	0.00
	割合	0%	0%	0%	
塾、家庭教師の先生にすすめられたから	人数	269	282	10	0.01
	割合	6%	7%	5%	
親、親戚にすすめられたから	人数	707	686	36	0.01
	割合	17%	16 %	17%	
授業について行けそうだったから	人数	817	740	39	0.03
	割合	20%	17%	19%	
将来就きたい仕事と関連しているから	人数	530	586	27	0.02
	割合	13%	14%	13%	
卒業後の大学等への進学に有利だから	人数	777	656	33	0.04
	割合	19%	15%	16%	
卒業後の就職に有利だから	人数	261	472	20	0.08
	割合	6%	11%	10%	
友人が選択していたから	人数	162	277	15	0.06
	割合	4 %	7 %	7%	
合格できそうだったから	人数	1389	1434	68	0.00
	割合	33%	34 %	33%	
入部したい部活動があったから	人数	770	970	40	0.05
	割合	18 %	23 %	19%	
その他	人数	343	272	32	0.06
	割合	8 %	6 %	15%	

「学校の雰囲気がよかったから」のクラメルの連関係数は $V=0.13$ と小さい値であるため、小さい性差が示唆された。クロス集計表を踏まえると、女性の回答が相対的に多い傾向にあることがわかる。

なお、他の項目については、クラメルの連関係数が 0.10 未満であり、統計学の観点では性差がほとんどないと判断される。

現在の学校生活の満足度に関する分析

マルチレベル分析

1年生から3年生の女性と男性のデータを抽出し、学校間の差を考慮した上で、現在の学校生活の満足度に関する学年差と性差をマルチレベル分析により検討したⁱⁱⁱ。分析に当たって、以下5つのモデルを設定した。

- モデル1：ランダム切片モデル
- モデル2：学年に関するランダム傾きモデル
- モデル3：性別に関するランダム傾きモデル
- モデル4：学年、性別に関するランダム傾きモデル
- モデル5：学年、性別、ならびに交互作用に関するランダム傾きモデル

マルチレベル分析の結果を以下に記す。以下の表にある値は、それぞれの係数の推定値を表している。

情報量基準の値から、AICについてはモデル4が、BICについてはモデル2が最良のモデルと判断される。よって、学校生活の満足度の学年差と性差には学校間でばらつきがあると判断できる。

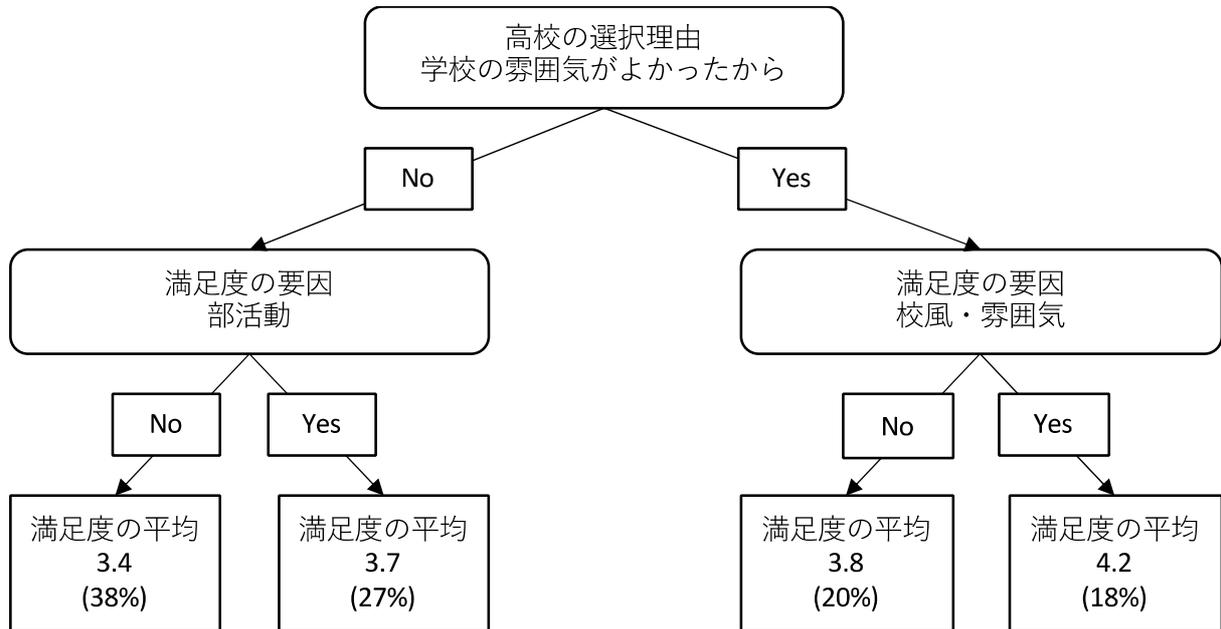
固定効果の値から、2年生と3年生は1年生と比べて学校生活の満足度は低いことが示された。つまり、学校間差を考慮した場合においても、高校生の全体的な傾向として、2年生と3年生は1年生と比べて学校満足度が低いことが示唆された。また、男性は女性と比べて学校生活の満足度が高いことが示された。つまり、学校間差を考慮した場合においても、高校生の全体的な傾向として、男性は女性よりも学校生活の満足度が高いことが示唆された。ただし、性別集計で算出したクラメルの連関係数を踏まえると、その差は小さいものと考えられる。さらに、2年生の男性は1年生の女子よりも満足度は低いことが示された。

	モデル 1	モデル 2	モデル 3	モデル 4	モデル 5
固定効果					
切片(γ_{00})	3.80***	3.82***	3.79***	3.82***	3.82***
2年生ダミー(γ_{10})	-0.23***	-0.26***	-0.23***	-0.27***	-0.27***
3年生ダミー(γ_{20})	-0.23***	-0.28***	-0.23***	-0.29***	-0.29***
男性ダミー(γ_{30})	0.11***	0.10**	0.12***	0.12**	0.11**
$\gamma_{10} \times \gamma_{30}$	-0.15***	-0.13**	-0.15***	-0.13**	-0.13*
$\gamma_{20} \times \gamma_{30}$	-0.07	-0.05	-0.07	-0.04	-0.03
変量効果					
学校間分散	0.02	0.01	0.03	0.01	0.02
個人間分散	0.73	0.73	0.73	0.72	0.72
Var(γ_{10})		0.02		0.03	0.05
Var(γ_{20})		0.05		0.05	0.06
Var(γ_{30})			0.00	0.01	0.01
Var($\gamma_{10} \times \gamma_{30}$)					0.03
Var($\gamma_{20} \times \gamma_{30}$)					0.03
Cov(γ_{00}, γ_{10})		0.00		0.00	-0.01
Cov(γ_{00}, γ_{20})		0.00		0.01	0.00
Cov(γ_{10}, γ_{20})		0.03		0.03	0.04
Cov(γ_{00}, γ_{30})			-0.01	0.00	-0.01
Cov(γ_{10}, γ_{30})				-0.01	0.00
Cov(γ_{20}, γ_{30})				-0.01	0.00
Cov($\gamma_{00}, \gamma_{10} \times \gamma_{30}$)					0.01
Cov($\gamma_{00}, \gamma_{20} \times \gamma_{30}$)					0.01
Cov($\gamma_{10}, \gamma_{10} \times \gamma_{30}$)					-0.03
Cov($\gamma_{10}, \gamma_{20} \times \gamma_{30}$)					-0.03
Cov($\gamma_{20}, \gamma_{10} \times \gamma_{30}$)					-0.01
Cov($\gamma_{20}, \gamma_{20} \times \gamma_{30}$)					-0.02
Cov($\gamma_{30}, \gamma_{10} \times \gamma_{30}$)					-0.01
Cov($\gamma_{30}, \gamma_{20} \times \gamma_{30}$)					-0.02
Cov($\gamma_{10} \times \gamma_{30}, \gamma_{20} \times \gamma_{30}$)					0.03
情報量規準					
AIC	21310.35	21253.05	21312.55	21252.58	21266.77
BIC	21366.63	21344.50	21382.90	21372.18	21463.75

*** $p < .001$ ** $p < .01$ * $p < .05$

決定木分析

現在の学校生活の満足度を従属変数、残りの変数を独立変数として決定木分析を行なったところ、以下の図の結果が得られた。



現在の高校の選択理由として「学校の雰囲気がよかったから」を選択した場合、現在の学校生活の満足度の要因として「校風・雰囲気」を選択すると、満足度の平均が高いことが示された。現在の高校の選択理由として「学校の雰囲気がよかったから」を選択していない場合、現在の学校生活の満足度の要因として「部活動」を選択すると、満足度の平均が高いことが示された。以上から、高校を選択する理由が「学校の雰囲気」であり、実際に入学してから経験した「校風・雰囲気」に適合した場合に、学校満足度は高くなると推察される。さらに、高校を選択する理由が「学校の雰囲気」ではない場合、「部活動」に満足することで学校満足度は高くなることも推察される。

高校の選択理由が「学校の雰囲気がよかったから」で、満足度の要因が「校風・雰囲気」である場合に、満足度の平均が最も高いことを踏まえると、中学生は高校を選択する上で、学校の雰囲気が自分に合うかどうかを第一に検討する必要性があるだろう。

ⁱ クロス集計（表）において、行と列の連関の強さの指標である。統計学においては、「効果量(effect size)」の1つとして位置付けられており、近年その重要性が高まっている。

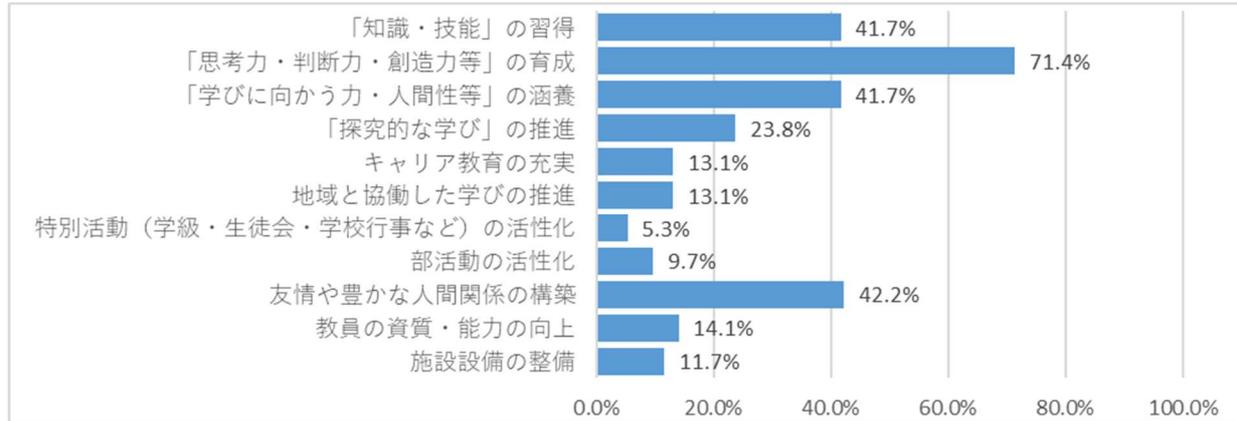
ⁱⁱ 水本篤・竹内理（2008）研究論文における効果量の報告のために：基礎的概念と注意点. 英語教育研究, 31, 57-66.

ⁱⁱⁱ 分析に当たって、A：5点、B：4点、C：3点、D：2点、E：1点と処理した。つまり、数値が大きいほど、学校生活の満足度が高いことを示す（最高5点、最低1点）。

PTA役員（公立小中高）及び同窓会役員（公立高校） 有効回答数 208

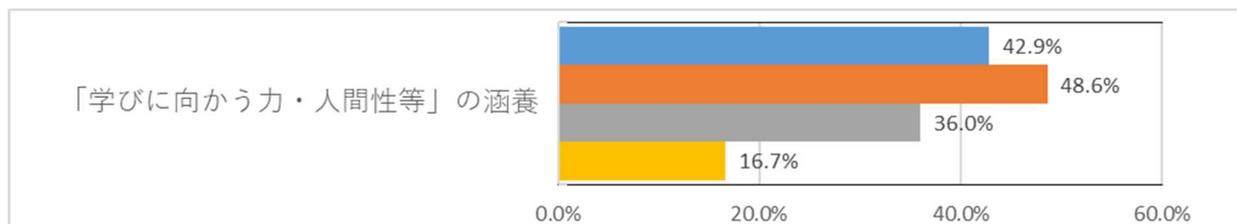
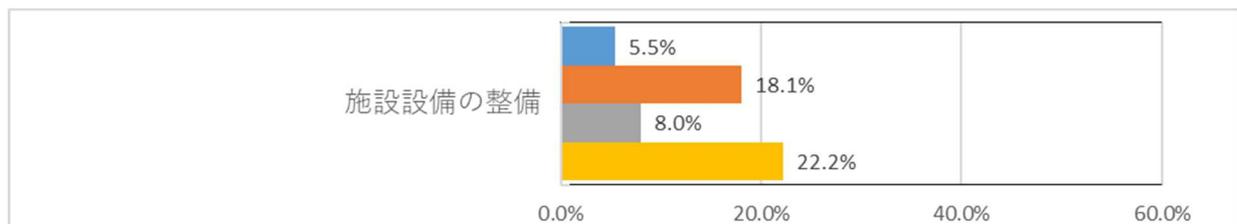
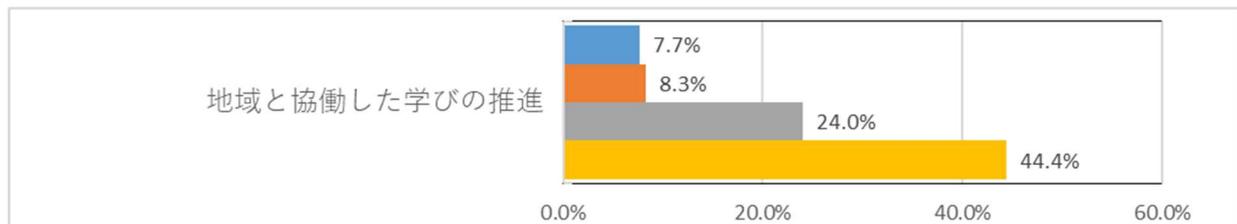
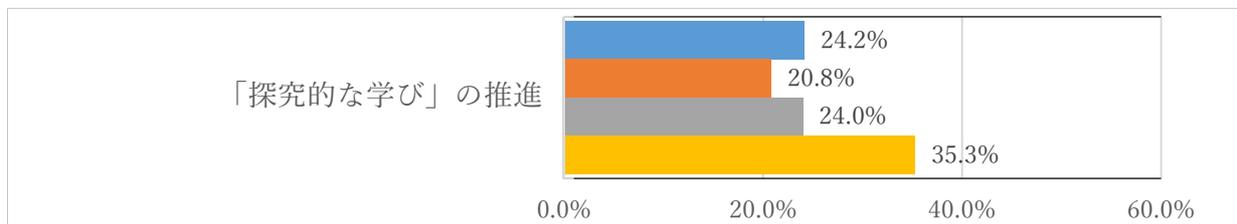
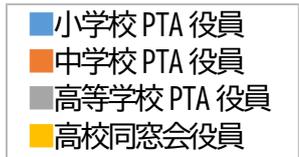
■回答者数 PTA役員 188名（小学校91名、中学校72名、高校25名）
 高校同窓会役員 20名

■旧第11 通学区の高等学校に期待することを3つ以内でチェック（チェックした人の割合）



■考察

「探究的な学び」については高校同窓会役員回答者の選択率が最も高かった。また、「地域と協働した学びの推進」については高校同窓会役員回答者の44%が選択したのに対し、小中PTA役員は10%に満たなかった。また、「学びに向かう力・人間性等の涵養」については、小中PTA役員の40%~50%が選択したのに対し、高校同窓会役員回答者は16.7%の選択にとどまった。その他の項目については大きな差は認められなかった。



■懇話会で取り上げて欲しい事柄や論点（原文のまま）

（小学校PTA役員）

- 高校に上がる前の、中学生のありかたについても、具体的に検討いただきたい。
- 普通科の中でも、幅広い学部選択制（偏差値の幅広さ）はできるか？各市に必ず1つは高校は必要ではないか？
- 職業科は就職に特化し、普通科は進学には有利に思う。県内有数の企業において、県内出身者内定率を向上させるなど高校統合とともに何をすべきかを議論して欲しいと考えます。
- 過疎を防ぐためにも地方にこそ、特色ある学校を設定しては私立校のような特色、進学、就職につながることを明確にしたアピールが必要。中学3年生での学力で振り分けられるのではなく、普通科でも、通いたいと思える高校であってほしい。
- 子供の数が減っている中で、高校の再編もやむを得ないですが、各高校の持つ特徴、歴史も、その中できちんと残していかなければいけないと思います。
- 都市部とそれ以外の地域での交通事情で選択肢が狭まることが予想されるため、先んじて対策が必要と思います。高校でも少人数制のクラス編成にしてきめ細かい教育や指導がなされることを希望します。
- 専門知識を向上させた高校を。この先大学に行く余裕も無い家庭が増えると思います。大学に行かずとも豊かな社会人になれる道を。
- 文部科学省の学習指導要領も大きく変わり、今後全国の高校生と大学受験で戦う為に、小学校、中学校では何が大きく変わるのか、また家庭では何をして行けば良いのか。
- 生徒数の減少でクラス数を減らすだけでは対応が難しい状況になると予想されます。学校数自体を減らす場合、学力や同窓会等の関係もあるかと思うので、その様な考えがあるなら、早めの準備が必要と考えます。
- 高校を選ぶ際にそれぞれの学校の特色を受験生にだけでなくすべての人に分かりやすく伝えてほしい。
- 都市部存立専門校と中山間地存立校の統廃合にあたっては地域住民の意見を充分聞いて検討いただきたい。
- 再編に関する基準について他校との統合については在席数以下2年継続した場合が適した判断基準かどうか慎重に検討した方が良いと思います。
- 少子化への対応を単なる教育の維持でなく、質を充実させることにも言及されているので、それらを遂行できる教員の方々へのサポートや負担軽減もしっかりと議論頂きたい。
- 実業界等外部人材の活用検討
- 専門学科設置にあたり高校卒業以降の各自の進路、社会とどうつながっていくか、不登校生徒も含め。
- 将来子どもが自分の将来を考えたときに、夢（興味）を変更していった場合でも挑戦できる環境とはどういう形か。
- 小中学校の公教育での「新学習指導要領」を取り上げた学びを参考としたらよいと思います。
- 社会的に必要とされる人間の育成
- コロナ禍で医療が逼迫する中、医師不足ももちろん世界的には技術的にも日本は追い越されつつある昨今将来的にキャリア教育、技能を身に付けるための教育が必要と思います。
- 全国的な地域偏差が生じないための方策（大都市圏の高校を選択する必要がない魅力ある学校）
- 少子化に伴い他校統合は仕方ない事と思う。どの学校でも意欲的に多様性を持って学べる環境が本人が望めば得られる事が大切ではないか。その点における学校運営は具体的にどのように改革される方針なのか知りたい。
- 今後の高校教育の在り方として、すべての高校生が自身の将来像を描くことができるキャリア教育を期待いたしますが、具体的にはどういった案が出ているのか教えていただきたいです。

○新たな学びの推進のためによりよい高校教育を行って欲しいと願っています。激変する社会に対応するために、どのような学びが必要なのかをしっかりと考えていただきたいと思います。

(中学校PTA役員)

○昔からこの地域は高校名に拘りがあるように感じる。特に普通科の高校はそれゆえに偏差値以外で特色が出しづらい状況になっているのではないかと。

○教育でのデジタルの活用方法(教育の質の向上へどう繋げるか)

○高校の授業の中で投資などの資産運営の講義や実社会に出た際の学生と社会人のギャップなどの講義があってもよいのかと。

○専門校の縮小は、将来的に学びの選択肢を狭めることになるのではないかと思います。中山間地存立校についても、都市部から遠い子どもたちにとっては重要な選択肢なので、縮小されることには反対です。

○中学生が高校(生活)に求める期待とは…?を具体的に掘り下げて欲しいです。"

○専門的かつ実戦的な技術を有する高校と世界に通用する人材を育成する教育プログラムを希望します。

○少子化とそれに伴う学校再編については、環境ありきの前に、まずは子どもたちのありたい/あるべき姿をしっかりと議論し、より具体的に明確にして欲しい。

○グローバルな視点での教育を考慮していただきたい。地域性を尊重しつつ、世界の中の日本の長野県での教育という視点がないと小さな社会の中に埋没する人間性になってしまう恐れがあるのではないのでしょうか。

○小規模高校では部活動が成り立たなくなっている実態

○今後の人口動態は推計されていることから、再編基準が適切か評価頂きたい

○ここ数年一部の公立高校に受験生が集中し、私立高校の併願を余儀なくされ、多額の入学金支払いが家庭の負担です。子供には受験の合否にかかる精神的負担ばかりがのしかかることについて改善の議論をお願いします。

○専門教育の充実をはかり、総合技術高校の設置の検討を是非お願いしたい。

○学びの場の保障、専門教育の充実、環境整備、子どもの視点に立った教育の質の向上

○新たな学びにふさわしい環境の整備……とあるが 具体的にどのように整備していくのか。

○今現在では学校数が多いと感じることは無く、私立は逆に少なく感じます。居住地周辺での感覚、また私が関西出身の為、私立の少なさに驚いています。ただ、少子化を見据えてのことなので再編やむを得ずかと思います。

○この学区は私立高校が多く、選択肢も非常に広い。普通校もこれまでとは違い、専門性を身に付けるような学科がたくさん出てくると良いと思う。専門技術は将来必ず役に立つ。

○中山間地存立校の生徒の入学者数が年々減って来ている。(特に明科高校)

○生徒数が少ないのであれば、そこを利点にして教育出来ないか、変えていかなければいけないと思う。

○地域の中学生の期待は、市内4校の倍率からみてもより将来の進学に備えた充実した学びにあるのが明確です。本当に可能性を持つやる気のある松本市外の生徒が、定員や調査書で不利になる(附属中からは100名弱、市外校から数人深志受検)の不平等さは問題である。附属入学のための塾に通った(選別のための学び)子どもの格差は、夢に挑戦できない現実を生んでいます。

○少子化に対応しながら個々の特性、夢に挑戦する学びとして地域の格差がなく、平等に学べる環境を整えるための対策

○県立高校である以上、県民の人口減(税収減)の中では再編するのは当たり前です。人口増に伴い1980年代に出来た高校から見直すのが必然的ではないのでしょうか。また、児童・生徒からすると県立も私立も同

じ土俵の選択肢であると思います。私立高校とも協力する必要があると考えます。通学区だけで考えるのではなく「通学手段」でも考えていただく必要があると思います。電車の通っていない、あるいは、最寄り駅まで遠い地域では通学が大きな問題です。逆に通学手段がしっかり確保できていれば中山間地存立校の必要はなくなると思います。その方がコストが低くて済むと思います。人口減にあっては県立であっても場合によっては他県からの募集も必要かも。総合技術高校を設置することは良いと思うが、このような高校は地域の企業とも連携したらどうか。伝統や特色のある高校は必然的に残る。また、高校同士横の繋がりも考える必要があるのではないか。例えば普通高校に通学しながら興味ある専門分野があれば地域内の別の専門校に条件付きで学びに行けるとか。また、人口減の中では単独の学校では部活動も制限されることが既に実際に発生しています。しかるべく大会への出場権の可非もあろうが、共同で部活動を行うことにより質の向上ややる気の向上にもつながると思います。また、普通高校であっても専門学科であっても大学・短大との連携によって教育の質の向上や生徒の学びへの意欲を高められるのではないか。

- 再編は必要なことだと認識できた。ただし、通学区の特長として普通高校の配置が私学も含めて松本に偏っている。再編の際はバランスも考慮しつつ通学のしやすさも配慮して進めていくよう検討願いたい。
- 今後も少子化が進行し、大学への進学率が高く、普通高校への志望が多くなる中で、今の技術校の中で11通学区の中に高専を設置して欲しい。
- 子どもたちの将来を見据えた学びの場、普通科でももっと特色を持ったカリキュラムを組んでもよいのではないか。
- 学力ある子供のみ市内の普通高校に行け、それ以外の子どもたちは私立か11通学区以外の高校に流れている。子どもたちがなぜ地元以外に流れていくのか話をさせていただきたいです。

(高校PTA役員)

- 存続を希望するOBや地域の方はどこの学校も思いは同じです。ですので、いっそのこと偏差値基準で全て新たな学校名でスタートすれば公平性は保てると考えます。
- 将来的に何になりたいか？学校に行って学ぶ価値観を生徒それぞれが持てる教育を望みます。不登校児や落ちこぼれを作らない対策をPTAとの意見交換にて発展出来れば良いと思う
- 特色ある高校の存続
- 人数が少なくなっていても、各地域に、高校があるということは、大事なことだと思う。統合することはよくないと思う。
- 地域に根ざした高校を築き上げてく事が、大事だと思います。
- 前期入試制度の拡大。
- 統合にあたり、どうすれば各高校の特色や個性を活かして融合出来るかを、今から考えて計画すべきだと思います。
- 総合技術校に適した学校とは？
- 単に成績順で生徒を割り振るような現在の仕組みではなく、各高校の特色をもう少し明確にし、それぞれの生徒が将来の進路を選択する上で有益となるような高校を目指していってはどうか？
- 学びや教養が実業に繋がるために、マナーレテラシーや起業家・事業家としての知識やマインドセットに触れる機会が欲しい。世界的に学生起業家も出て来ているが、依然として社会に出て初めて知ることが多いから。
- IoTを活用した在宅学習を含めた、場所、校名にとらわれない再編
- 再編は致し方ないですが、中山間地存立校が存続するには、こういった可能性があるのかさまざまな意見を聞きたいです。

- 専門校については企業が望む人材育成を考慮して教育方針を考えて行く事を考える。少子化で統合、募集停止はしかた無し。
- 少子化に伴い、生徒数が減ったからといって、先生の数を減らすのではなく、出来るだけその少子化という事を活用し、教育内容を濃いものに。
- 県教育委員会が標榜する「新たな学びの推進」の”新たな学び”とは具体的にどのようなものか。現状の教育現場の課題・問題意識について。
- 選抜方法の中学格差について信大附属ではなく深志附属になっている。不公平。お受験の低年齢化、進学校合格者全体の附属割合が多すぎる。
- 将来的に都市部存立専門校の築き上げてきた風土、特色、強みが薄れないように存立普通校または中山間地存立校に再編できるような計画が必要ではないかと思います。

(高校同窓会役員)

- 専門学科は専門教育の活力を維持充実させていくために、他通学区と合わせて拠点学校に学科を集約していく必要があると思います。
- 高校で教えることなのかと疑問に思うこともあるが、勉強の仕方、方法を教育するのも必要かと、少人数での対応が望ましくなるかとも思う。高校名の変更(地域名の入らない名称など)。
- 都市部存立普通校と中山間地存立校のそれぞれの特色を明確にして、生徒が選択する理由をわかりやすくすること。例:都市部は生徒が多く競争できる。中山間地は少ないから生徒会、部活で主役になれる
- 地域で育てた人材が高校、大学等を卒業後、大都市圏に流れるのではなく、地元に残って活躍したいと思える地域の魅力を伝える教育
- 少子化で小規模再編やむなしと思うが、今のままでは同じ再編が繰り返される。まず、私立に負けない施設環境の整備、教師の所得改善、転勤を少なく年数をかけて織り込める教師を作る、小さな学校でも一つ突き出た科目、スポーツ、生徒を引き付ける特徴ある教育、地域に根付いた学びの構築、大学との繋がりなど私立高校より公立への志願が増えるのではないかとと思われる。
- 望ましい募集定員に達しない学校は達するようどのような努力が必要か。他校との統合をしっかりと考える。
- 高校の学級定員 40-35 名、実業科 30 名定員等考えて欲しい。定員数を減らすことで授業の質を高め、学級活動の内容を高めることが大切だが当然教師が楽をすることではなく一人の生徒に沢山手をかけるべきである。
- 1 学年 200 名が限度。格差は必ず生ずる。能力にあったクラス分けも考えた方がよいのではないかと。大町には高学歴を要する大学向けのコースを設けて遠距離通学を避けるべきだと思う。
- 少子化の進行は確実にやってくるのに対し再編基準を数字で表現し 2 年続いたら他校との統合や募集停止というのは各校の歴史を考慮すると切ない。施設は残るのでもっと工夫した再編方法を検討すべきである。
- 少子化の進行を考えると再編の実施は避けられないと考えますが、私立高校が多いことからお互いに「相手の立場」を尊重した議論を期待します。(私立高校の懇話会参画)

■自由記述(旧第 11 通学区におけるこれからの高校教育のあり方(高校配置を含む)についてのお考え)

(小学校 P T A 役員)

- 少子化が進む中、良い取り組みだと思うが、変化期にいる子どもや親は不安に感じると思う。試行錯誤ではなく、しっかりと計画し、共有していってほしい。
- 各高校の統合はアクセスもご考慮頂きたい。専門高校の学科については時代に求められる学科の設置、教育内容である事を望みます。

- 普通科だけの高校で再編成する場合は 1 大学へ進学するのか②就職するのか③短大や専門学校へ進学のか、子供達の選択肢が在学中にできるような幅広い高校の体制を整えば、皆さん納得できるのではないかと思います。
- 子供の減少により統合は仕方がないと考えます。学校がより良く活発に SNS を駆使して外に発信して欲しい。
- 高校が、自分のやりたいこと、なりたい職業を見つけられるような学びの場であることを願っています。
- 同じ分野で統合されるならとても良いと思います。色々な意見はあると思いますが、昔と子供の数も違いますし状況も違います。新しい時代の流れに沿ったやり方で、改革は大変だと思いますが頑張ってもらいたいです。
- 子どもも減る中で地域的な差が出ず、かつ特色ある学校づくりは難しいと思う。予算も含めて教育にかける熱量の抜本的見直しが必要ではないでしょうか。今の高学歴社会にも問題あり。
- 県ヶ丘の探究科は、とても人気が高く特色が分かりやすい。公立高校、進学校であっても、普通科生徒が専攻できるなど、今までとは違う学びが必要。他に、高校に馴染めない子の通うフリースクールを担う高校が必要。
- 前の設問で書いてしまいましたが、それを同窓会と一緒に考えていくべきでは、と思います。
- 学校数の削減、魅力的なカリキュラム等、時代に合わせた改革が必要。
- 高校入学は多くの生徒にとっては初めての進路についての選択になります。各校とも偏差値ではない部分でも特色を付け、多様な進路の選択肢を示していただきたいです。少子化による再編をチャンスにしてほしいです。
- 少子化の中、さらに大学受験でも厳しさが増すと予想されるが、県内の高校のレベルは、全国の高校生と戦える学力が備わっているのか疑問がある。
- 勉強も大切ですが、自己形成においても重要な年代です。人間関係の構築や、社会に出た時に悩まない困らない為のサポートをして頂ければと思います。
- 時代の変化に沿いつつも、効率ばかりを求めることなく、子供に多様な教育の場を選択させることのできる方向性を希望します。
- 部活動の発展を期待します。
- 公立でも私立に近い活動を行うことにより、志望校の選択や各種大会の盛り上りへと繋がると思います。部活での経験が人の痛みがわかる人間となり夢への挑戦へと発展していくと考えます"
- アンケートを実施してくださることに感謝しております。ありがとうございます。
- 高校教育について、私の知識は未熟なものです。ですが、身体、知的障害、学習障害、何らかの理由での不登校児に対する受入校、学級が増えて、子供たちの選択の幅が広がれば良いと思います。
- 子ども達の家庭、養育環境が多様化する中で、転校を余儀なくなった場合等、子どもの学ぶ権利が守られるような仕組みを考えていただきたい。
- 私立、市立高校との分け隔てなく学校活動の活性化の為、何か共有できる活動指針の検討
- 他都道府県での実例も参考にされながら、教育に力を注いでいる県としての特色もだしていけると良いと考えます。
- 全ての親に関わることなので、一般の人にも受け入れやすい言葉や表現にして周知していかなければ本当の意味でも高校教育の在り方を実現できないのではないかと思います。多くの人が参加（意見交換）できるようなわかりやすい説明が必要。
- 商業、工業高校で普通科はいらない。ただ卒業すればいいだけの学校になっている。
- 都市部存立普通校の定員は5クラスで良いのではないのでしょうか。

- コロナ禍もあり大都市へ若者が集中することは見直されていくと思うので、生まれ育った地域で、世界と戦えるだけの力を付けることが期待できる学校があるとありがたい。
- 総合技術高校が旧 11 通学区にできると選択範囲が広がっていいと思う。
- 学力向上も大事ですが、生きていく上で大切なことを学べるようにひとりひとりが輝ける場所であってほしいと願います
- 高校生の時期は子供にとり自分に肯定的に共感してくれる友を得られるかがとても大切かと思う。勉学とともに心の成長をも得られる場所として高校には大いに期待したい。
- 例年、旧第 11 通学区に志願者数が殺到していますので、もっと幅広く選択できる高校配置(行きたい、学びたいと思える高校)を期待します。
- 全国での競争という現実を踏まえた学力レベルの維持

(中学校 P T A 役員)

- 生徒の数が減ってしまう事をマイナスにとらえず、少人数だからこそ手厚く、先生と生徒の距離が近い、人間性を磨くような教育をして欲しい。
- 通学区内の私立高校は、それぞれの特色を生かし生徒の面倒見もいと聞いている。私立とうまく住み分けをしつつ、公立の良さをもっと生かし、生徒にきちんと還元してほしい。多様な生徒に対し多様な学びの提供を。
- 私立高校は定員を満たしているのに対して、県立高校では定員割れの学校も多いため、県立高校の魅力ある学校づくりと公私協調への取り組みを期待したいです。
- 高校入試のハードルが低下(倍率低下)し、高校のレベルが下がる懸念
- 社会に出た際のモラル・マナーを学生時代に養うと良いと思います。また、金融や株式など投資の資産運営の知識も必要になります。そんな講義があると良いと思います。
- 高校生活において次なるステップに繋がるような新しい発見や将来に繋がる足がかり(将来の夢)自分の進むべき道になるような所であって欲しいと思います。
- 翻弄されず、主体的に社会と関わって行くには、強い精神力が必要だと思います。夢の実現に向け様々な体験をし、ストレンクスを見つけられる環境が必要だと思います。
- グローバルに世界に通用する人材育成が必要
- 子どもたちが社会から求められる事がより複雑化し、多様化していく中で、学びに必要な要素の一つであるコミュニケーションの手段/技術はより高度に増加しており、新しい教育を構築する上で上手に活かして欲しい。
- 社会に進出する、またさらに活躍するための技能を目指す前段階での高校生活において、勉学や運動など活躍しつつ、これから待っている社会についての知識・見識が備わるよう導く必要があると思います。
- 少子化は避けて通れないと思います。部活動などもある程度、人数がいないと活気がないものになってしまう気がします。小規模高校の場合は、そのメリットを分かりやすく示す必要があると考えます。
- 中信地区(旧第 11 通学区)においては、総合技術高校がないので将来どこかの学校が統廃合になるのであれば、そういった専門的なことを学べる学校を継続(新設)できるようにしたらよいと思う。
- 大学進学のための学力レベルアップをはかる為の高校教育からの脱却。何の為に高校行くの？って子どもに聞かれたら大学行く為と返答するのは親としては避けたい。理想は将来何になるかを見極める為に時間を費やす場所
- 人数が減り他校と統合、多様な学びの場を全県に配置など記載されていますが、其にともない通学が困難だったり行きたい高校を諦めずに選択出来るように寮なども一緒に考えて頂きたいです。

- 自主性を言い訳に生徒任せにせず、教師が十分生徒に関わり将来を考えられる場にさせていただきたいです。また、タブレット学習ばかりが先行せず人間との関わりを大切にした教育をお願いしたいです。
- 普通校については適正な数、規模の設置が必要だと思います。
- 再編ありきではなく、地域の実情、教育の質の向上、公平性など多角的な視点での議論を期待したい。
- 子ども達が、偏差値だけではなく、教育内容によって本当に学びたいと思える学校を選択できるよう、それぞれの学校を充実させてもらいたい。
- 再編ありきで子供たちの学ぶ環境やそれぞれの学校の良いところが失われないよう配慮いただきたい。
- 公立高校にも専門知識を得られる科があってもいいのでは?と思います。例えば工業、農業など
- 社会はITがますます必要不可欠になっている。全生徒にタブレットを支給して授業は出来ないだろうか。
- 教科の知識も大切だが、早くから将来を見据えて、専門的な学びの場をもっと増やして欲しい。
- 専門的な知識の習得ができる学校が増えればと思う
- 将来の地域の活性化(松本市外)のためにも、市外中学校からの進学校へのチャレンジの機会を大切に公平にかんがえていただきたい。絶対評価の考え方が中学(附属と地方)で%など違いを説明、公表すべきである。現在の不公平感は小学校からひずみを生んでいます。附属中の生徒は学力が高いとの前提の上、評定の「5」「4」を大勢付けていると塾や学校関係者から聞きます。地域の中学と同じテストを受けての評価ならまだしも、定員の1/3も一つの学校から入学するのはおかしい。公立中学で部活も必死に頑張る、人間として底力のある生徒さんたちが公平に土俵に登れるよう、中学の評定の付け方、高校選抜での格差是正に指導をしていただきたい。
- 高校教育において、子どもたちが社会に出る一歩として興味、意欲を持って将来を見据える環境であって欲しい。「自分は何ができるのだろう」という答えがはっきり出せなくても、それを見つける場で、教育であって欲しい。
- 旧第11通学区からは今やどこにでも行ける(通学可能なら)そのため、特色ある魅力ある高校、高校教育をはっきりわかるようになると良いと思います。
- 人数が多いからこそできることを高校では学んでもらいたい。そして多くの友人を通じて社会性や社交性を身に付けたり、子どもたちが多くの先生たちと出会う機会を提供する場を維持してってもらいたい。また、学校を統合することで古い施設や建物を更新し、安全安心な環境を整えていく必要もあるのではないのでしょうか。
- 中山間地存立校については家庭の事情などで遠方まで通学できない子たちの為に残して欲しい。(地域キャンパス化しても残して欲しい)都市部存立校については隣接校例えば南農・穂商など通学などを考慮して合併もありだと思います。専科については考える必要あり。
- 今の現実をみると再編実施は避けて通れない事とは思いますが、高校教育の質の保証をしっかり守るような改革にしてもらいたい。
- 子どもの減少は根本的なところから考えないといけない部分。でも地域差はあってはならないと思う。自分の将来を考えた時希望の高校がなく、別の選択を余儀なくされるのはかわいそう。
- 発達障害やその症状を呈している生徒の学びの場も考えていくことで、今の子どもたちが地域で自分の特性を生かしながら生活していくことが可能になると思いました。
- 現在の高校の特性が理解できない、聞こえないため、我が家でも子どもが高校(どこに行こうか等)行きたいと言っていない。

(高校PTA役員)

- 専門校のより高度なスキルアップと、普通校のキャリア教育の充実を理解し実践可能な教員の育成。

- 現状詳しくありませんが～無理に改革は必要ないと思っております。
- 地域に根付き、普通校、専門学科などより特色を持ち将来の職業選択のために役立つ高校であって欲しい。
- 少子化で子供達が少なくなるのなら、子供達1人1人に寄り添う学習ができる時代になるのだと思います。
少なくなるから統合してしまうというのは安易な考えな気がします。
- 少子化が進む中で、私立高校に対抗できる改革がなければ、県立高校はいずれ再編によって統合や廃校となる。
- 受験して入った学校を途中で辞めてしまう事がない様さまざまなサポートの充実が必要、学校の減少で公共交通機関での通学が不便になってしまう事もあるかと懸念する
- 小中学校のコミュニティスクールのように、高校も地域の方の協力が必要だと思いますが、その前に親が関わる環境も必要だと思います。
- 再編基準が絶対ではなく、地域ごとの私立高校と公立高校の配置バランスを配慮した再編をお願いします。
- どの高校も同じ授業内容ではなく(特に普通科)、大学進学、専門学校進学、地域での就職といったそれぞれの進路に合った内容を学べる特色ある高校教育が必要とされてきていると思う。
- 誰もが事業や起業をする可能性が高まっている今だからこそ、アントレプレナーシップと学び・教養との結びつきを視野に入れて欲しい。
- 衛星予備校なるものの台頭もあるように、受験前提の学習であればリモートでのオンデマンド学習も効果的なはず。一方、部活動を含めた集合学習が望ましい学習も必要でそれらの効率的なバランスが必須
- 専門校は技術や知識の習得がしっかりでき生徒の学びに対する意欲も高いと思います。在学中の生徒、同窓会、他校の専門校、地域のつながりを含め様々な方々の意見を総合的に考える必要があると思います。
- 総合技術高校の方向性は良いと思う一方で、理数系に特化した専門校は私立でもあまり聞きません。より求められる分野かと思しますので、推進されればと思っています。
- もっと自ら考えて行動する力を養える教育を
- 大きく通学区として見て、学力差をバランス良く存続させるのも大事ですが、統合などで通える学校が減る事で、通学が不便になりすぎないよう、地区ごとに学校を残して欲しいと思います。
- 附属中以外の生徒たちの頑張りを公平に見られる内申点に。5の評定をつける人数を公表して欲しい。松本市内一極集中の打開を。議会に伝えて審議していただきたい。
- 少子化が進む中、その時代の背景を逆に強みとし、きめ細やかな教育、生徒の将来を見据えた対応。

(高校同窓会役員)

- 通学区は過去何回か変更した経緯があります。子どもの数が減っている現在、考察は必要と思います。
- 今始めても5年はかかるので、再編の検討をお願いします。
- 専門校は拠点校の位置付けを明確にして集約して行ったらと思います。出来れば総合技術高校では無い方向で。
- 自宅から通学できる環境は大切だと思う。公共交通機関やその手段が減っていく中で、地域の協力が得られれば学校までの送迎などあるといいのでは考えます。(お金の問題になるとは思いますが)
- 自由で楽しい学校生活を送りながらも、具体的な目標を持てるような教育をしてほしい。
- 再編計画の方向で、「規模の大きさを活かした…」とあるようになるためには、6クラスを確保する必要があると思います。
- 地域と連携し、地域の魅力や若い力を地域が必要としていることを生徒に伝え、生徒が他県へ流出することなく地元に残り、地域で力を発揮したくなるように教育してほしい
- 先生と生徒の関係性において、お友達では無く、どこまでも、先生と恩師である事を望みます。

- 豊科高校出身。市内校に目が向いているが市内中心ばかりでは困ると思います。県立高校も特色を出していくことが大切ではないかと思います。私立高校と経済的な面で差がないと聞きました。スポーツ・芸術等私立高校は力を入れているので私立を選択する生徒も多いようです。
- 3クラス 30 人学級で定員割れまで存続できないものか。公立の先生 1 人三役とか複数の責務を兼ねていて大変苦勞しています。私立の先生は与えられた役を集中して指導。公立の学校も兼ねるのでなく専任の先生をつけていただきたい。
- 地域連携の一環として部活動以外の交流により他校の校風、地域内の団結心の向上等が図られればよい。
- 都市部の農業、工業高校は単独で残すべきと考えるが総合技術高校の保護者や OB、教師等に本音で感想を述べて欲しい。
- 高校配置は地域の活性化も考え配置すべきと考える。中山間地校については配置の必要性があるとは思えない。
- 小中と比較すれば高校については教育的ゆとりがあるように思う。進学にしろ就職にしろ、教員の指導力の向上を期待したい。
- 施設設備の面で私立高校に引けを取らないように、また、カリキュラムで私立高校にないものを選択できるように。
- 少子化が進んでいるので、再編は必要だと思う。

高校生による「高校のあり方フォーラム」報告

- 1 日時 令和3年4月26日（月）16時15分から～17時45分
- 2 参加者 17校（公立13校、私立4校）、生徒32名、荒井座長、信州大学生・大学院生
- 3 内容 Web会議システム（Zoom）を利用したオンラインフォーラム（グループワーク）
- 4 テーマ 共通

- ①この地区の中学生は高校をどう選択しているんだろう？
- ②知識・技能だけでなくプレゼン力や協働力・共創力なども求められるようになった。コロナの影響もあって主体的、対話的、探究的な学びなど、学び方が急速に変化しているが、高校生としてどう感じますか？ 実感がありますか？
- ③高校生の年代に、勉強や学び以外で経験すべきことは何だろう？

グループ別テーマ

- A どんな高校に行きたい？ どんな高校が魅力？ どんな高校を作りたい？
- B 勉強したくなる、学びたくなるためには？ そのために必要なこと、モノは？
- C 楽しい授業、為になる授業とは？ どんな授業を受けたい？
- D 高校生が困っていることは何か？ 高校生に必要な支援・サポートとは？

○中学生は高校をどう選択しているのだろう？（自分はどう選択したか）

多様な背景を持った人を受け入れてくれる学校。 学力で選んだ。 探究活動を通して将来したいことを見つけるため。 受験勉強ができる学校。 商業に興味。 総合学科があった。 自宅から近い。 中学生の時に調べて。家が近い。風邪を引いて（前期が）受けられなくて後期で入れるところに来た。お祭りなど 地域活動が豊富なところに魅力を感じた。 学力があっている。 水泳が いい環境で出来る。自宅からは遠いが 魅力があった。家から近く お金のかからない公立。 サッカー強い。併願。IBに関するプレゼンがすごかった。学力で絞って剣道部がある方。美須々に行きたかったが学力的に落とされた。 学力に見合った学校へ進学した。早く決めたかったので、 早く決まるところを選んだ。 学校の先生から勧められた中で家から近く自分の学力に見合っているか。 勉強せずに当時の学力で確実に行ける学校であること。担任の先生に勧められて実際に見学に行った。 勉強以外のことを楽しむことができることが決め手。 土曜授業があり 勉強に打ち込める環境が整っている。周りの環境 （同級生）が進学する人が多かったから流れで。 雰囲気・部活動が魅力。 将来就きたい職業や大学のため、留学などの教育環境が魅力的だった。管理栄養士という 資格を得るため。 将来のことを考えると 稼げるのはITだと思って、 専門科目をやりたかったから。

○急速に学びが変化していることは感じているか？

デジタルを使って学ぶことが増えてきた。英語での スピーキングの時間が減った。 学ぶ内容は変わらない。学ぶ内容が 暗記型から思考・記述型に変わった。 グループワークが増えた。 グループワークは少ない。 学ぶ方法が変わった。

○高校時代に勉強以外にやるべきことはなんだろう？経験してよかったこと。

社会活動。高校生でしか出来ないことをやるべき。人間関係。アルバイトなどの社会経験。コミュニケーション能力。アルバイトの経験が将来の自分のためにつながるはず。若い人しか出来ないことに挑戦してみる。部活動の存在が大きく同じ境遇にいる仲間と関係性をつくれたことがよかった。自身で部活動を立ち上げたが、いろんな年代の人と交流することができた。生徒会に入れたことで様々な経験が積めた。生徒会でいろんな人からいろんな意見が出て、それを取りまとめて1つのものを創り上げる方法を学ぶ経験ができたこと。自分の学びたい授業を学ぶことができたこと（島へ行って火起こし、乗馬といった体験）。他者との対話を通してコミュニケーションの方法について学べたことがよかった。バスケ部に所属し良い仲間と出会うことができた。

○どんな高校に行きたい？どんな高校が魅力？どんな高校を作りたい？

校舎がきれい。個性を受け入れてくれる、個性あふれる（現在の校則が厳しい）学校。説明できない校則はやめるべき。明るい雰囲気の学校（生徒の態度が良い、挨拶あふれる学校）。みんなとコミュニケーションが取りやすい学校。生徒の学力に合わせたクラス分け。やりたい事ができる学校。主体的に動ける学校。芯を持って動く。対話的な授業。

<Bグループ アルバイトについて>

人とのつながりが増える。バイトをすると学びの時間が減ってしまう。学業とバイトの両立。

○学校の特色は？

地域の方と意見交換会を6年くらい前からやっている。グローバルな活動、全教科でグループワークが多い。（コロナで）例年より少なかったが地域との交流。文化祭できたらいいな！部の出店をしていたが（コロナで）できない、地域の人にやってもらいたい。学年関係なく集まって1つのテーマについて全員で話し合う（テーマはその時に学校が抱えている問題）。

<Cグループ>

○授業外での活動は大切？→「全員そう思う」

- ・受験は大切だが地域との活動があれば塩尻全体で何か成し遂げる＝達成感
- ・高校は社会に出る前、礼儀マナー・配慮を身につけられる

○授業外の活動を現状より増やしたい→2人 このままくらいでいい→6人

- ・（後輩には）今の自分たちが思いつくより沢山のことに挑戦してもらいたい。

○普段の勉強は楽しい？

英語が楽しい、ペアで話し合う、動く授業が楽しい。楽しいと学びたくなる。グループワークで自分と違う意見が聞けて楽しい、英語でやることが多い。勉強が「楽しい」はあまりないかなあ、単元に興味があることはある。先生から言われたことはする。自主的には△。授業スピードが遅い、勉強は好きだけど自主勉する。高校の授業が楽しい。

●こんな学びがしてみたい、どんな学びが魅力か

受け身な授業よりも生徒が主体的になって行う授業であるとやる気があがってよい。自分の興味のある教科を選択して学べるようになってほしい。(※豊科高校で実際に行われている、板書を生徒が行い補足説明を先生が行うという授業形態について自分の学校でも行って見たかったという賛成意見が多数出た。)まんべんなくいろんな勉強ができる。暗記が好きで、世界史が楽しい、豚の頭を解剖するのが刺激的だった。食品加工や環境に関する実習などが面白かった。好きなこと(実習ができる)、プログラミングなどの実践的なことができること。

●将来どんな学びが必要か

座学だけでなく職場体験や地域社会に出ていく自由な勉強・授業が必要なのでないか。実験やフィールドワークが必要ではないか、座学だけではつまらない。自分で学ぶ環境が必要。販売実習など地域とのコミュニケーションを大事にする。別分野の人から話を聞きたい、他のチャンスが欲しい。

●少子化が進むとどうなるだろうか

子供が減れば年金制度などが限界になり日本が苦しくなる。子供に希少価値が生まれる→子供がレアな存在に。地域の伝統文化が失われる。高校が減少すると、高校の選べる幅が狭くなるため教育の質が低下する。子供が減ると予算がなくなり、施設や備品が悪くなり、結果として生徒のストレスになる。地域力が低下する。

●学校の統廃合についてどう思うか

家からの距離が遠くなるけど、どうするんだろう？ 30分電車、1時間待ちがある。電車の15分前に行き、駅まで20分、電車を待つと2時間かかることもある。統合反対派。少人数の方が今の社会の需要に合いそう。今は(クラス)30人いるが多い気がする。授業進度、レベルの差(があるからどうするのか)。

松本市立中学校の生徒への対面ヒアリング

旧第 11 通学区高等学校教育懇話会 研究部会 I

- 1 日時及び場所 4月27日(火) 16時25分～17時40分 市内中学校
- 2 ヒアリングの形態 中学3年生7名への座長による対面ヒアリング
- 3 出席者 荒井座長、松本市教育長、県高校教育課高校再編推進室主任指導主事、
松本市教育委員会事務局
- 4 ヒアリング内容

【中学校生活：中学校のいいこと、楽しいこと、はまっていること】

- ・仲間という時間が楽しい。学校がない土日はさみしい。学校はみんなと楽しめるいい場所。中学校になってそう思うようになった。小学校の修学旅行のバス移動中にカラオケで歌ったらみんなが笑ってくれて、自信を持てたことがきっかけで性格も変わった。
- ・高校選びに、友達関係は大事。部活でも一人で行動するときもあるし、一緒にいたいこともあるし、その日の気分次第で友達に影響されることはない。高校で運動をしたい。勉強は点数をとれるが、テスト期間だけしか頑張らない。アスリートとして、早く走るための運動の勉強はする。スイッチが入れば勉強をする。みんなでグループワークする勉強は好き。一人で考えるのはあまり。
- ・好きなことは音楽を聞くこと。勉強、運動後や疲れた時間くとリフレッシュできる。チームでもめたりすると嫌な気分。姉や家族も音楽が好きだから。勉強はあまり好きではない。記憶力はいいが、思い込みでやる気がなくなる。一回やればもういいと思っている。面倒くさがりで、取りかかりが難しく、テスト前にあわててやる。
- ・高校は行きたい。将来やってみたいことがない。何をするかによって勉強の仕方が変わると思う。そういうのがないので余計やる気がない。高校でやりたいことを見つけたい。
- ・体育の授業が楽しい。800メートル走でタイムがだいぶ縮まったのが嬉しかった。走るときに、考えながら自分で振り返り分析をするとタイムが良くなる。体育の授業でも振り返りシートがある。
- ・将来、大学に行きたい。社会の歴史や理科の地質が好き。大学に進学するためにも学力を上げないといけないので、頑張って勉強しないと。
- ・勉強は好きだけど、授業は嫌い。例えば、国語で音読をしたり、漢字を1ページ練習で写したり、マンネリ化している。理科のように実験があると楽しい。難しい問題を考えるのが好き。覚えたことを活用することのほうが楽しい。
- ・会計士にあこがれ、高校、大学に行きたい。いい大学に入るためには、好きではないが暗記の勉強もしないといけない。
- ・数学の授業も好き。簡単なものの繰り返しでなくて、みんなでわからないことを教え合って、相手がわかってくれると嬉しい。なりたいことがいっぱいある。学校や塾の先生、音楽や趣味も生かしたい。
- ・高校は行きたい。高校を選ぶ理由は、以前は家の近くでいいと思っていたが、やりたいことがないので、できるだけ(偏差値が)高いところについて幅広く学びたい。

- ・嫌いな勉強をやり続けてからゲームするのがいい。時間のルールはないが、我慢している。将来、ゲームに関わりたいとは思ってなく、いい会社に入りたい。平均年収くらいお金があり、定時で帰れるのがいい。ゲームは戦って勝つところが面白い。人よりうまくなるのが楽しい。課金も少しする。
- ・架空のデータの世界にお金をかけるのはどうかと思う。
- ・育成ゲームも楽しい。プログラミングなどで新しいゲームを作りたいとは思わない。
- ・行きたい学校はある。ここか、ここしかないだろう。ここならいいかなという感じ。
- ・振り返りに関連して、毎晩、いいことや嫌なことを日記に書く。お店で好みの日記帳を見つけたことがきっかけで、小4からの日課。高校や大学は行きたい。薬剤師になりたい。理科・科学を学んだり、好きなことができたらと思う。

【高校の学科：どのような高校に行きたいか。】

- ・夢への実現に向けて沢山練習している。アスリートになるために佐久長聖に行きたい。
- ・小3の頃から親が通っていた高校に決めていて、そのために塾に行っている。その高校には英検の受験や、文化祭で行ったことがある。雰囲気が好き、校則が自由なところが楽しそうに思える。校則が厳しいのはちょっと嫌。
- ・高校一覧に書いてあったクイズ研究部があるところに行きたい。部活で選ぶ。その高校の文化祭に行き、雰囲気は楽しそうだった。他に兄が通っていたところを見学した。
- ・兄は数学が得意で、姉は美術が得意だけど、自分は何もなくて、劣等感があつた。自分は努力して二人に追いつくことは勉強しかない。兄が通った高校より上、姉の高校と同じか、それよりも上がいい。見学に行ったら雰囲気は、いい意味で変人がいていいと思った。自分と違う意見を持っている人がいっぱいいて楽しそうだった。
- ・探求科がある高校が気になっている。暗記は苦手だけど、どうしてそうなったかななどを考えることが好きだから。

【高校選択：高校を選ぶときどういう情報がほしいか。】

- ・高校卒業後、アスリートとして進む道があるのか知りたい。
- ・公立と私立の学費などの差について。

【高校選択：専門学科、特徴がある高校、魅力的な高校について】

- ・やりたいことが決まっている人はいいが、そうでない場合、どうすればいいのかと思う。親とか姉の行っていた高校には興味がある。安心できるところに行ってみたい。
- ・偏差値が高い学校に行きたい。バレーなど部活は、私立の方が特徴がある。公立もそういう特徴があればよい。でも部活より偏差値のほうを選択する。行きたい高校は2年から文系と理系が分かれるから、やりたいことができてよい。
- ・文化祭が楽しくて好きなので、そういう活動に熱が入っているところに行きたい。

【その他：他の人と一緒に学び、答えのない問いを考えること】

- ・国語でSDGsについて、ブレインストーミングをやってわくわくしてとても楽しかった。条件が3つ与えられて解決する糸口をみんなで考えること。
(この生徒以外の多くから、こういう学びを「やりたい」との声あり)

塩尻中学校 3 学年 高校改革グループディスカッション ワークシート

【1】中学校生活について

(1) 中学校生活で楽しいことは何ですか？ また、塩尻中学校の自慢は何ですか？

- ・礼儀正しい（あいさつ、靴がきれいにそろえられている）
- ・仲が良い ・治安がよい（荒れている生徒がいない）
- ・積極的なところ ・明るいところ ・制服がかわいい
- ・給食が美味しく楽しい ・校舎がきれい（トイレ、教室、体育館など）
- ・景色がきれい ・校門のワイン色の柱
- ・学校行事（部活動、文化祭、修学旅行など）
- ・地域の人との会話 ・先生が丁寧に教えてくれる
- ・伝統を大切にしている ・清掃前に黙想している
- ・集会時に静かに整列できる

(2) 塩尻中学校を更に伸ばしていく、良い学校にするにはどうしたらよいと思いますか？

- ・自分の力を高めたい ・友人、部活動、将来のため
- ・人との関わり（協力、助け合い） ・他学年との交流を増やす ・地域での交流を増やす
- ・先生ともっと仲良くしたい ・不用物の持ち込みを無くす。
- ・積極的な発言 ・お互いの意見を尊重しあう ・様々なことに挑戦する ・授業選択
- ・一人ひとりが積極的に学校のことに関わっていく
- ・施設の充実（学びやすい環境づくり） ・最先端の技術を取り入れる
- ・一人ひとりの意見を大切にする ・団結力 ・距離に関係なく自転車通学
- ・環境が変化すると混乱するから今のままで良い

【2】中学卒業後の進路について

あなたは、高校に進学したいと思いますか？ 進学したいと思う人はその理由や目的、進学したくないと思う人はその理由を記入してください。

- ・将来の道を広げる（職業の幅が広がる）・中学卒業では仕事がない（職業が限られてしまう）
- ・しっかりした収入を得るため ・中学校にはない部活動ができる
- ・大学や専門学校へいくための基礎を磨きたい
- ・たくさんの人と関わることができ、自分のやりたいことが見つかる
- ・新しい出会いがあり楽しそう ・自分の力を高める
- ・自分の限界や能力を知りたい ・自分の目標を達成するため ・将来の夢があるから
- ・中学校では学ぶことができない分野をもっと広く学びたい
- ・部活の種類が増える ・友達を作りたい ・高校生活に憧れがある

【3】【学びについて（探究的な学び・これからの時代に必要な学び）】

(1) 皆さんにとって「楽しい授業」「為になる授業」「もっと受けたい授業」は、どのような授業ですか？

- ・グループで話し合うことができる（個人の意見を尊重する） ・自分たちで学ぶ
- ・重点やポイントがわかりやすい ・身近な事例に例える
- ・インターネットの活用 ・PC を多用して分かるまで自習できる
- ・一人一台パソコンをもっと使用したい
- ・一人ひとりに合わせた授業 ・先生が親しみやすい ・先生と生徒でつくる授業

- ・自分の意見が言いやすい、ポイントがわかりやすい、疑問がうまれる授業
- ・自分の疑問が解決できる授業
- ・自分の好きなものをもっと詳しく探究できる授業
- ・いろいろな教材を活用した説明や体験ができる ・板書が分かりやすく見やすい
- ・一つひとつ詳しく教えてくれる ・苦手の克服ができる ・テストや入試に役立つ
- ・教科書に載っていないことを学べる ・興味がわく
- ・社会に出て為になる授業

(2) 「探究的な学び」「主体的な学び」「対話的な学び」についてどのようなイメージを持っていますか？ 自由に書いてください。

- ・「対話的な学び」で、いろいろな意見が聞くことができる
- ・みんなで考えを深め合える ・一つの事について詳しく調べて学ぶ
- ・自分の意見をしっかり持てる ・自分から積極的に取り組む
- ・自分の力で調べたり、研究したりすることによって、疑問に思っていたことを解決できる
- ・調べられるから理解しやすい ・一人ひとり違う意見が出せるので自由なイメージ
- ・主体的に深く掘り下げる ・先生があまり話さない
- ・授業のほかに努力を要するというイメージ
- ・理解しやすい ・難しそう ・自信がつく ・大人になって使う

【4】(未来の) 高校に期待すること

(1) あなたにとって「こんな高校があったらぜひ進学したい」と思うような、「理想の高校」「魅力的な高校」を自由にイメージしてみてください。

- ・テストをしないで入学できる高校 ・就職率100%
- ・学費などお金がかからない
- ・授業や先生がおもしろく、部活動や授業に集中できる
- ・一人ひとりの個性を大切にする
- ・みんなの意見を聞きながらつくる楽しい行事がある
- ・教科選択ができる ・英語以外の語学が学べる ・進学に特化した
- ・個人の意見を尊重してくれる ・過ごしやすく、未来を見据えた授業
- ・学びたいことをじっくり学べる、専門的なことを学べる
- ・色々なことが学べる高校 ・環境が良くて色々なことに熱中できる高校
- ・校舎がきれいで雰囲気が良い ・Wi-Fi環境がある ・最新機器が揃っている
- ・部活動に力を入れている ・体験学習がある ・バイトができる
- ・校風が自由で堅苦しくない ・全校が仲良くいじめがなく明るい ・オンライン
- ・文武両道 ・交通の便がいい(駅に近い等)

(2) 「人生100年時代」とも言われています。皆さんにとって、中学卒業後の年代(高校生の年代)に「勉強」や「学び」以外で大切だと思うことを考えてみてください。

- ・将来のこと ・人としての行動(思いやり、礼儀など) 上下関係
- ・自分や家族との時間 ・コミュニケーション力(人間関係、自己表現力)
- ・地域の人との関わり ・人間性(モラル)
- ・友達関係 ・心の支え ・青春、恋愛、部活、運動、バイト、遊び
- ・他人の思想や個性を大切にする ・自ら様々なことに取り組む ・好奇心
- ・食事 ・プログラミング(IT) ・お金 ・スマホ